

## 日本人の国民性調査関連文献と資料

以下に掲げるのは、日本人の国民性調査を開始した 1953(昭和 28) 年以降今日までに、統計数理研究所国民性調査委員会の委員によって国民性調査研究に関して執筆された文献と資料を、可能な限り網羅した目録である。近年の分については、国民性調査委員会・国際比較調査委員会の委員と共同研究者によるもの、および記者発表等を受けての新聞記事も含む。

### 1953 年

1. 林知己夫 他：「わが国国民性の統計数理的研究」**日本統計学会会報**, 1953 年度, 52-66, 1953 年.

### 1954 年

2. 林知己夫：「統計的立場から見た国民性の研究」**教育統計** (文部省調査局), 第 30 号, 16-53, 1954 年.

### 1959 年

3. 「国民性の研究 第 II 次調査 (その 1)」**数研研究レポート**, No. 5, 1959 年.
4. 「国民性の研究 第 II 次調査 (改訂増補版)」**数研研究レポート**, No. 6, 1959 年.
5. 西平重喜：「日本人のものの考え方」**経済評論**, 8 月臨時増刊号, 135-157, 1959 年.

### 1960 年

6. 「国民性の研究 岐阜吟味調査」**数研研究レポート**, No. 7, 1960 年.
7. 林知己夫：「日本人の国民性」**自由**, 1 月号, 58-72, 1960 年.
8. Hayashi, C. *et al.* : A study of Japanese national character, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. I, 1-30, 1960.
9. Hayashi, C. *et al.* : A study of Japanese national character — Part II —, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. II, 1-30, 1960.

### 1961 年

10. 統計数理研究所国民性調査委員会：「日本人の国民性」, 至誠堂, 1961 年.
11. 西平重喜：「国民性第 II 次調査 — その 1 —」**日本統計学会会報**, 1959 年度, 52-53, 1961 年.
12. 鈴木達三：「国民性第 II 次調査 — その 2 —」**日本統計学会会報**, 1959 年度, 53-55, 1961 年.

### 1963 年

13. 「国民性の研究 岐阜調査 (1963)」**数研研究レポート**, No. 8, 1963 年.
14. 西平重喜：「日本人の意見」, 誠信書房, 1963 年.

### 1964 年

15. 「国民性の研究 第 III 次調査 1963 年調査」**数研研究レポート**, No. 11, 1964 年.
16. 「成年の常識 (壮丁検査との比較) および職業の社会的評価 (職業ランキング)」**数研研究レポート**, No. 12, 1964 年.
17. 鈴木達三：「国民性の研究 — 第 III 次全国調査について」**統計数理研究所彙報**, 11 巻 2 号, 105-176, 1964 年.
18. 鈴木達三：「戦後日本人は変わったか」**自由**, 10 月号, 140-147, 1964 年.

**1965年**

19. 林知己夫・西平重喜・鈴木達三：図説・日本人の国民性 (至誠堂新書 5), 至誠堂, 1965年.

**1966年**

20. 「国民性の研究 1965年調査」数研研究レポート, No. 14, 1966年.  
 21. Suzuki, T. : A study of the Japanese national character — Part III, the third survey, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. IV, 15-64, 1966.

**1967年**

22. 林知己夫・鈴木達三：「日本人の自画像—日本人は日本人をどう考えているか—」自由, 1月号, 170-178, 1967年.

**1968年**

23. 鈴木達三：「日本人の国民性・ものの考え方」統計 (日本統計協会), 19巻2号 (2月号), 22-27, 1968年.

**1969年**

24. 「宗教調査—1968年, 国際比較—」数研研究レポート, No. 21, 1969年.  
 25. 「国民性の研究 第4回全国調査—1968年全国調査—」数研研究レポート, No. 23, 1969年.  
 26. 「国民性の研究—I. 1969年岐阜パネル調査—II. 面接調査と自記式調査の比較 (1969年岐阜自記式調査)」数研研究レポート, No. 24, 1969年.  
 27. 林知己夫：「日本人の国民像—15年の変化」自由, 7月号, 49-57, 1969年.  
 28. 西平重喜：「日本人の宗教的態度と国際比較」布教, 6月号, 344-356, 1969年.  
 29. 西平重喜：「日本人の宗教的態度と国際比較」布教, 7月号, 403-417, 1969年.  
 30. 西平重喜：「15年間の意見の変化—国民性第IV次調査より」国民生活研究, Vol. 8, No. 7 (7月号), 44-50, 1969年.  
 31. 西平重喜：「国民性の変化」新聞広告ゼミナール講演集第20回, 全日本新聞広告会, 75-111, 1969年.

**1970年**

32. 統計数理研究所国民性調査委員会：第2日本人の国民性, 至誠堂, 1970年.  
 33. 林知己夫：「断絶する政党と国民の政治意識」自由, 2月号, 90-95, 1970年.  
 34. 西平重喜：「国民性調査からみた現代日本人の考え方感じ方」TVVレポート, No. 67, 81-85, 1970年.  
 35. Nisihira, S. : Les attitudes des Japonais envers la religion, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 6, 81-94, 1970.  
 36. Suzuki, T. : A study of the Japanese national character — Part IV —, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 6, 1-80, 1970. (255. に収録)

**1971年**

37. 青山博次郎：「日本人—統計から見た特性」毎日夫人, No. 136 (5月号), 4-18, 1971年.  
 38. 鈴木達三：「海外における日系人のパースナリティ調査企画」AD.R (KYOWA AD-REVIEW), No. 54, 9-13, 1971年.

**1972年**

39. 林知己夫：「比較研究のむずかしさ」共同通信, 1972年7月5日.  
 40. 林知己夫：「日本人の国民性について—第20回国際心理学会に出席して」産経新聞, 1972年8月25日.  
 41. Hayashi, C. : The Japanese national character, *Abstract Guide of XXth International Congress of Psychology, 1972 Tokyo*, 46-47, 1972.

42. 西平重喜：「西洋人は宗教についてどう考えているか」**宗務時報**, No. 29, 2-21, 1972年.
43. 鈴木達三：「ハワイ（ホノルル）における日系人—日本人の国民性調査との関連—」**学術月報**, Vol. 24, No. 11 (308号, 2月), 37-44, 1972年.
44. 鈴木達三：「変わりゆく日本人の国民性」**PR ニュース** (電通 PR センター), 77号 (9月1日号), 3, 1972年.
45. Suzuki, T., Hayashi, C., Nisihira, S., Aoyama, H., Nomoto, K., Kuroda, Y. and Kuroda, A. K. : A study of Japanese-Americans in Honolulu, Hawaii, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 7, 1-60, 1972. (255. に収録)

### 1973年

46. 「ハワイにおける日系人—日本人の国民性調査との関連, —ハワイ日系人の言語調査」**数研研究レポート**, No. 33, 1973年.
47. 林知己夫：「比較文化研究に対する一つの統計的分析の試み II—態度数量化の一方法 IV—」**統計数理研究所彙報**, 21 巻 2 号, 173-181, 1973年.
48. 林知己夫 (編著)・西平重喜・野元菊雄・鈴木達三：**比較日本人論** (中公新書 333), 中央公論社, 1973年.
49. 西平重喜：「日本人の国民性について」**心と社会**, Vol. 4, No. 1, 47-53, 1973年.
50. 坂元慶行：「公共意識と個人の権利意識」**AD.R (KYOWA AD-REVIEW)**, No. 63, 19-23, 1973年.
51. 鈴木達三：「比較文化研究に対する一つの統計的分析の試み I—日本人の国民性とハワイ日系人—」**統計数理研究所彙報**, 21 巻 2 号, 125-171, 1973年.

### 1974年

52. 「国民性の研究 第5回全国調査—1973年全国調査—」**数研研究レポート**, No. 38, 1974年.
53. 林知己夫：**社会と統計** (放送大学実験放送テキスト), 旺文社, 1974年.
54. 林知己夫：「日本人の心は変わったか—調査からみた日本人の国民性」**日本人研究 1/日本人の心は変わったか** (日本人研究会 編), 至誠堂, 1-80, 1974年.
55. 林知己夫：「日本人の科学文明観」**内外教育** (時事通信社), 1974年5月24日.
56. 林知己夫：「日本人はどのように変わったか—国民性の調査から—」**町村週報**, 1165号 (6月), 3-7, 1974年.
57. 林知己夫：「日本人の心のヒダ—根深い義理人情構造—」**朝日新聞**, 1974年6月17日夕刊.
58. 林知己夫：「現代の若者も人情課長を好む—現代若者の職場意識—」**あすへの力** (神奈川県青少年育成課), No. 62 (7月), 1-4, 1974年.
59. 林知己夫：「日本人の国民性をめぐって」**教育と医学**, 10月号, 11-19, 1974年.
60. 林知己夫：「相互理解の構造—年齢の断絶はくるか—」**青淵**, 10月号, 23-25, 1974年.
61. 林知己夫：「義理と人情」**にんげん百科**, 5巻7号 (通巻59号), 1414-1415, 1974年.
62. 林知己夫：「日本人は健全である—国民性調査20年で明らかにされた真実」**正論**, 12月号, 52-60, 1974年.
63. 林知己夫：「日本人の偉人観」**歴史と旅**, 1巻12号 (12月号), 141-142, 1974年.
64. 林知己夫：「日本人の価値観」**自治研修**, 12月号, 11-20, 1974年.
65. Hayashi, C. : Time, age and ways of thinking—from the Kokuminsei surveys, *J. of Asian and African Studies*, Vol. X, No. 1 & 2, 75-85, 1974. (77. に収録)
66. Hayashi, C. and Suzuki, T. : Quantitative approach to a cross-societal research; a comparative study of Japanese character, Part I, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 26, No. 3, 455-516, 1974. (255. に収録)
67. 西平重喜：「政治についての世論の変化—20年史」**日本人研究 1/日本人の心は変わったか** (日本人研究会 編), 至誠堂, 81-113, 1974年.

68. 西平重喜：「変わった国民性 変らない国民性」自由, 8月号, 174-182, 1974年.
69. Nisihira, S. : Changed and unchanged characteristics of the Japanese, *Japan Echo*, Vol. I, No. 2, 22-32, 1974. (68. の英訳)
70. Sakamoto, Y. : A study of the Japanese national character — Part V, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 8, 1-57, 1974.
71. 鈴木達三：「国民性国際比較の方法 — 日本人とハワイ日系人の比較から」日本人研究 1/日本人の心は変わったか (日本人研究会 編), 至誠堂, 258-318, 1974年.
72. 鈴木達三：日本人の国民性 20年の変遷 (電通モチベーションリサーチ研究委員会定例研究会レポート No. 12), 1974年6月.

### 1975年

73. 統計数理研究所国民性調査委員会：第3日本人の国民性, 至誠堂, 1975年.
74. 林知己夫：「日本人の意識は支持政党によりどうちがうか」日本人研究 2/支持政党別日本人集団 (日本人研究会 編), 至誠堂, 1-54, 1975年.
75. 林知己夫：「統計で日本人の心を描く」日立, 37巻2号(2月号), 8-9, 1975年.
76. 林知己夫：「日本人の生きがいについて」貯蓄時報 (日銀), No. 106 (12月号), 12-22, 1975年.
77. Hayashi, C. : Time, age and ways of thinking — from the Kokuminsei surveys, IN *Adult Episode in Japan* (ed. Plath, D. W.), E. J. Brill, Leiden, 75-85, 1975. (65. を収録)
78. Hayashi, C. and Suzuki, T. : Quantitative approach to a cross-societal research; a comparative study of Japanese character, Part II, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 27, No. 1, 1-32, 1975. (255. に収録)
79. 西平重喜：「日本人の宗教的態度の変化」布教, 29巻3号, 174-180, 1975年.
80. 坂元慶行：「戦後日本の経済と人間の意識構造」週刊東洋経済, No. 3868 (4月24日臨時増刊号), 117-125, 1975年.
81. 鈴木達三：「比較文化研究の問題」数理科学, 13巻3号 (No. 141), 39-44, 1975年.

### 1976年

82. 林知己夫：「変わる思想・変わらぬ思想」信濃毎日, 1976年1月1日.
83. 林知己夫：「調査は何を物語るか」スチールデザイン (新日本製鉄 (株)), 154号, 3-5, 1976年.
84. 林知己夫：「日本人の考え方はどう変わったか」日本文化会議月例懇談会収録集, No. 85, 1976年.
85. 林知己夫：「世論をどうつかまえるか」日本人研究 4/世論とは何か (日本人研究会 編), 至誠堂, 1-48, 1976年.
86. 林知己夫：「比較研究ということ」統計 (日本統計協会), 27巻10号 (10月号), 55-56, 1976年.
87. 鈴木達三：「地域開発、地域社会に関する世論」昭和50年代の地域開発を考えるための地域開発関連文献に関する調査・報告書 (日本地域開発センター), 95-98, 1976年3月.
88. 鈴木達三：「思想と年齢」数理科学, 14巻1号 (No. 151), 9-14, 1976年.

### 1977年

89. The Research Committee on the Study of the Japanese National Character : *Changing Japanese Value — Statistical Surveys and Analyses —*, Inst. Statist. Math., 1977.
90. 林知己夫：「世論調査の発展と現状」世論調査の現状と課題 (輿論科学協会 編), 至誠堂, 51-88, 1977年.
91. 林知己夫：「日本人の対外国態度と対外国人態度」日本人研究 5/日本人の対外国態度 (日本人研究会 編), 至誠堂, 191-214, 1977年.
92. 林知己夫：「価値観、につばん 1895-1977」週刊東洋経済, No. 4001 (4月16日号), (中綴じ4頁), 1977年.

93. 林知己夫：「計量的日本人論」文化庁月報, No. 105 (6月号), 4-7, 1977年.
94. Hayashi, C. : Changes in Japanese thought during the past twenty years, *Text of Seminar in the U. S. (March 1977)*, *Nihonjin Kenkyukai: Changing Values in Modern Japan*, 3-57, 1977. (255. に収録)
95. Suzuki, T. and Jitodai, T. T. : Migration and prefectural identification in four Japanese prefectures, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 29, No. 3, B, 511-525, 1977. (255. に収録)
96. Suzuki, T. and Kuroda, Y. : A note on immigrants to Hawaii, IN *A Comparative Sociological Study on the Adaptation and Attitude Change of Asian Emigrants (Migration Research Series No. 1)*, Dept. of Sociology, The University of Tsukuba, 30-39, 1977.

### 1978年

97. 林知己夫：「日本人の対外国態度」正論, 4月号, 31-32, 1978年.
98. 林知己夫：「革新政党的伸びる条件」Voice, 4月号, 38-39, 1978年.
99. 林知己夫：「日本人のグループダイナミックス」グループダイナミックス (三隅二不二 編), 旺文社, 128-137, 1978年.
100. 林知己夫：「国民性」実験心理学研究, 17巻2号, 153, 1978年.
101. 林知己夫：「政治意識の生態—時と場合で使い分け—」朝日新聞, 1978年12月16日夕刊.
102. Hayashi, C. : Japanese attitude and party preference, *Japan Echo*, Vol. 5, Special Issue, 58-81, 1978. (74. の翻訳)
103. Hayashi, C. : Nationality, IN *Social Psychology in Japan* (ed. Misumi, J.), Osaka University, 674-675, 1978.
104. Kuroda, Y., Suzuki, T. and Hayashi, C. : A cross-national analysis of the Japanese character among Japanese-Americans in Honolulu, *Ethnicity*, Vol. 5, 42-59, 1978.
105. 西平重喜：世論反映の方法 (第II部第1章 日本人の国民性), 誠信書房, 1978年.

### 1979年

106. 「国民性の研究 第6回全国調査—1978年全国調査—」統計数理研究所 研究レポート, No. 46, 1979年.
107. 林知己夫：「戦後日本人の意識はどう変わったか—『伝統保守』へのUターンと“新型日本人”の出現」朝日ジャーナル, Vol. 21, No. 32 (8月17, 24日合併号), 96-100, 1979年.
108. 林知己夫：「都会人の自然観をめぐって—自然のあり方を考えるに際して—」グリーンエイジ ((財) 日本緑化センター), 9月号, 7-14, 1979年.
109. 林知己夫：「若い者は何をどう考えているか—国民性調査から—」教育委員会月報, No. 350 (10月号), 4-15, 1979年.
110. 林知己夫：「現代日本人の意識」自警, 12月号, 24-28, 1979年.
111. 林知己夫 他：「政治意識の感情構造の研究」統計数理研究所 研究レポート, No. 45, 1979年.
112. 林知己夫 他：「比較文化における統計的手法の確立—ハワイにおける日系人・非日系人調査—」統計数理研究所 研究レポート, No. 47, 1979年.
113. 鈴木達三：「いつ日本人は勤勉ではなくなるか」文化会議, 第121号 (7月号), 29-30, 1979年.

### 1980年

114. 林知己夫：「日本人の自然観—心を探る統計的方法— (講演概要)」新大広報 (新潟大学), 55号, 17-19, 1980年.
115. 林知己夫：「比較研究における方法論」日本人とアメリカ人—比較研究の意義・方法・可能性— (トヨタ財団第7回助成研究報告会資料), 74-92, 1980年2月.

116. 林知己夫：政治意識の感情構造と無党派層 ((社) 民主主義研究会報告書), 1980年3月.
117. 林知己夫：「心にとって加齢とは何か」*日本老年医学会雑誌*, 17巻3号, 270-273, 1980年.
118. 林知己夫：「日本人の意識の底を探る試み—お化けへの関心—」*数理科学*, 18巻6号 (No. 204), 23-32, 1980年.
119. 林知己夫：「若者の心の流れ」**更正保護** (法務省保護局 編), 7月号, 32-35, 1980年.
120. 林知己夫：「多元化社会の青少年」*教育委員会月報*, No. 362 (10月号), 4-15, 1980年.
121. 林知己夫・飽戸弘・佐藤誠三郎・岩男寿美子・児島和人・田崎篤郎：**多元化社会の生活関心** (多元化社会の生活関心研究グループ—大平総理の政策研究会報告書9), 1980年7月.
122. Hayashi, C. : Data analysis in a comparative study, IN *Data Analysis and Informatics* (eds. Deday, E. et al.), North-Holland, 31-51, 1980.
123. Leghorn, R. Y. and Suzuki, T. : Age, sex and cohort: explicating social change in post-war Japan, *Proc. of Kyoto American Studies Summer Seminar*, Doshisha University, 95-124, 1980.
124. 水野欽司：「“暮らし方”意識の動き—日本人の国民性調査から—」*統計* (日本統計学会), 31巻5号 (5月号), 1-6, 1980年.
125. 西平重喜：「世論調査にみる同時代史 (1) 日本人の考え方の変化」*自由*, 9月号, 18-27, 1980年.
126. 西平重喜：「日本人は宗教をどう考えているか」*宗務時報*, No. 55, 7-20, 1980年.
127. The Research Committee on the Study of Honolulu Residents : Honolulu Residents and Their Attitudes in Multi-Ethnic Perspective: Toward a Theory of the American National Character, *The ISM Monograph*, 1, The University Press of Hawaii, 1980.
128. 鈴木達三：「アメリカ人の価値意識—国際比較の方法論的研究—」**日本人とアメリカ人—比較研究の意義・方法・可能性—** (トヨタ財団第7回助成研究報告資料), 40-73, 1980年2月.
129. 鈴木達三：「調査データの見方**確率と統計—基礎から応用まで** (林知己夫 編著, テレビ大学講座), 旺文社, 101-114, 1980年.
130. Suzuki, T. : Pitfalls in cross-cultural survey research: comparative study of value systems in Japan and the United States, *Proc. of Symposium on Research Funded by the Toyota Foundation, The Japanese and the Americans: Significance, Methodology and Possibilities of International Comparative Studies*, Toyota Foundation, 97-101, 1980.

#### 1981年

131. 林知己夫：「国民性の比較研究—国際比較研究の問題点—」**日本文化の国際性と国際化の研究** (放送開発センター, 昭和55年度), 33-54, 1981年3月.
132. 林知己夫：**日本人研究三十年** (至誠堂選書6), 至誠堂, 1981年.
133. 林知己夫 他：「社会的態度基底構造についての国際比較方法の標準化に関する研究」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 54, 1981年.
134. 水野欽司：「日本人の価値観を探る—第6回・国民性調査から」**公務員の倫理と価値観** (地方自治研究資料センター 編, 自治研修叢書), 第一法規, 165-187, 1981年.
135. 中村隆・鈴木達三：「コウホート分析について」*日本行動計量学会第9回大会発表論文抄録集*, 136-137, 1981年.

#### 1982年

136. 統計数理研究所国民性調査委員会：**第4日本人の国民性**, 出光書店, 1982年.
137. 林知己夫：「考えの筋道による国際比較」**現代社会心理学の発展 I** (三隅二不二・木下富雄 編), ナカニシヤ出版, 291-339, 1982年.
138. 林知己夫：「日本人論について」**文化と人間** (東洋 他編, 講座現代の心理学), 小学館, 365-424, 1982年.

139. 林知己夫：「日本人の生きがいの変遷 — 国民性調査から —」**教育と医学**, 30 卷 4 号 (4 月号), 12-22, 1982 年.
140. 林知己夫：「計量的国民性研究の立場 — 日本人研究を中心として —」**学術月報**, Vol. 35, No. 3 (6 月号), 162-167, 1982 年.
141. 林知己夫：「法意識の底にあるものを求めて」**現代日本人の法意識** (日本文化会議 編), 第一法規, 45-83, 1982 年.
142. 林知己夫：「敬う (特集—新・日本人像—)」**月刊 NIRA**, 9 月号, 13-15, 1982 年.
143. 林知己夫 編著：**日本人の政治感覚** (日本人研究 6), 出光書店, 1982 年.
144. 林知己夫・穂山貞登 編：**日本と東南アジアの文化摩擦**, 出光書店, 1982 年.
145. 林知己夫・米沢弘：**日本人の深層意識** (NHK ブックス 414), 日本放送出版協会, 1982 年.
146. 中村隆：「ベイズ型コウホート・モデル—標準コウホート表への適用—」**統計数理研究所彙報**, 29 卷 2 号, 77-97, 1982 年.
147. 中村隆：「新しいコウホート分析について (1)~(3)」**中央調査報**, No. 297~299, 6-7, 1982 年.
148. 中村隆：「社会調査データのコウホート分析」第 50 回日本統計学会講演報告集, 181-183, 1982 年.
149. 中村隆：「ベイズ型コウホート・モデル」日本行動計量学会第 10 回大会発表論文抄録集, 42-43, 1982 年.
150. 鈴木達三：「“ものの考え方”の変化と現代」**サイコロジー**, 3 卷 1 号, 32-41, 1982 年.
151. 鈴木達三：「国際比較の方法—日本人とアメリカ人—」**数理科学**, 20 卷 8 号 (No. 230), 7-21, 1982 年.
152. 鈴木達三・中村隆：「継続調査の二次分析」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 56, 1982 年.
153. 鈴木達三・中村隆・柳原良造：「マーケティングの新しい手法コウホート分析 (上)」**DIAMOND ハーバード・ビジネス**, Vol. 7, No. 4, 39-48, 1982 年.
154. 鈴木達三・中村隆・柳原良造：「注目されるコウホート分析 (下) マーケティング戦略にどうかすか」**DIAMOND ハーバード・ビジネス**, Vol. 7, No. 5, 86-95, 1982 年.

### 1983 年

155. 林知己夫：「女の意見の特色」**日本人研究 7/日本の女性の生き方** (杉山明子 編), 出光書店, 163-179, 1983 年.
156. 林知己夫：「日本人論と行動計量学」**行動計量学**, 10 卷 1 号, 1-6, 1983 年.
157. 林知己夫：「日本人の健康観」**労働衛生**, 27 卷 7 号 (7 月号), 30-31, 1983 年.
158. 林知己夫：「比較日本人論」第 26 回 TASK 講演会予稿, TASK たばこ総合研究センター, 1983 年 11 月.
159. Hayashi, C. : International understanding through broadcasting and the basic structure of the social behavior of people, *HBF News Letter*, ISSUE No. 16, May, 35-49, 1983.
160. 中村隆：「女性の意見の世代差」**日本人研究 7/日本の女性の生き方** (杉山明子 編), 出光書店, 44-83, 1983 年.
161. 中村隆：「一般コウホート表の分析—ベイズ型コウホート・モデル (III)—」日本行動計量学会第 11 回大会発表論文抄録集, 65-66, 1983 年.
162. 坂元慶行：「日本人の国民性」**文化のなかの人間** (永野重史・依田明 編, 発達心理学への招待 7), 新曜社, 199-214, 1983 年.
163. 坂元慶行：「日本における意識動向の新たな断面—人間関係観を中心として—」**統計数理研究所彙報**, 31 卷 2 号, 133-149, 1983 年.
164. 鈴木達三：「コウホート分析—継続調査データの組織的利用法—」**マーケティング・リサーチャー**, No. 30, 43-49, 1983 年.
165. 鈴木達三・中村隆：「社会調査データの集積化と二次分析」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 58, 1983 年.

**1984年**

166. 「伝統志向の中にも新しい日本人 — 文部省国民性調査」 **朝日新聞**, 1984年11月17日.
167. 「義理人情は健在 — 日本人の国民性調査」 **産経新聞**, 1984年11月17日.
168. 「大切なのは国より家族 — 国民性調査『義理人情』も健在」 **東京新聞**, 1984年11月17日.
169. 「『国家より家族大切』 — 国民性の研究まとまる、本音思考派が増加」 **日本経済新聞**, 1984年11月17日.
170. 「『清く正しく』が激減 — 30年前に比べ義理人情変わらず、伝統回帰も」 **毎日新聞**, 1984年11月17日.
171. 「国民性の研究 第7回全国調査 — 1983年全国調査 —」 **統計数理研究所 研究レポート**, No. 60, 1984年.
172. 林知己夫: **調査の科学** (ブルーボックス571), 講談社, 1984年.
173. 林知己夫: 「科学のおとし穴はどこにあるか」 **あいまいさを科学する** (林知己夫・坂本賢三 編, ブルーボックス554), 講談社, 17-54, 1984年.
174. 林知己夫: 「国際比較からみた私の日本人論」 **集団力学研究所紀要**, 1巻, 21-59, 1984年.
175. 林知己夫: 「現代日本人の心情風景」 **産経新聞**, 1984年12月10日夕刊.
176. 林知己夫: 「日本人の国民性に関する十章 — 30年間の調査から —」 **教育委員会月報**, No. 412 (12月号), 4-25, 1984年.
177. 林知己夫: 「新しい日本人が生まれつつある」 **内外教育** (時事通信社), 1984年12月7日.
178. 林知己夫 編著: **多次元尺度解析法の実際**, サイエンス社, 1984年.
179. 林知己夫 他: 「社会調査による国際比較方法の研究」 **統計数理研究所 研究レポート**, No. 59, 1984年.
180. 林知己夫 他: 「新しい価値意識の形成過程に関する計量的研究」 **統計数理研究所 研究レポート**, No. 61, 1984年.
181. Hayashi, C., Suzuki, T. and Hayashi, F.: Comparative study of lifestyle and quality of life: Japan and France, *Behaviormetrika*, No. 15, 1-17, 1984. (255. に収録)
182. Hayashi, C. and Suzuki, T.: Changes in belief systems, quality of life issues and social conditions over 25 years in post-war Japan, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Part B, Vol. 36, No. 1, 135-161, 1984. (255. に収録)
183. 中村隆: 「コウホート分析の方法」 **ブレーン**, Vol. 24, No. 9, 58-65, 1984年.
184. 中村隆: 「支持政党のコウホート分析」 第52回日本統計学会講演報告集, 321-322, 1984年.
185. The Research Committee on the Study of Japanese Americans in Honolulu, Hawaii: Honolulu's Japanese Americans in Comparative Perspective, *The ISM Monograph*, 2, The University Press of Hawaii, 1984.
186. 四手井綱英・林知己夫 編著: **森林をみる心**, 共立出版, 1984年.
187. 鈴木達三: 「世代論の計量的展開 — 市場調査データとコウホート分析 —」 **ブレーン**, Vol. 24, No. 9, 45-56, 1984年.
188. 鈴木達三: 「社会調査による国際比較研究における問題」 日本心理学会シンポジウム予稿集, 1984年10月.
189. Suzuki, T.: Ways of life and social milieus in Japan and the United States: a comparative study, *Behaviormetrika*, No. 15, 77-108, 1984. (255. に収録)

**1985年**

190. 統計数理研究所国民性調査委員会: 「国民性調査のコウホート分析 — 第3版 —」 **統計数理研究所 研究レポート**, No. 62, 1985年.
191. 林知己夫: 「新しい日本の誕生」 **世界日報**, 1985年1月13日.



192. 林知己夫：「私の世界 — 日本人研究 (上・下)」**信濃毎日**, 1985年5月24, 25日夕刊.
193. 林知己夫：「国際理解と国際比較」**統計数理**, 33巻2号, 265-272, 1985年.
194. 林知己夫：「日本人のものの考え方・感じ方 — 国際交流における問題点 —」**国際を考えるシリーズ** (国際商科大学国際交流研究所), 第3号, 3-27, 1985年.
195. 林知己夫：「国際文化比較の意味を考える」**文化会議**, 189号(3月号), 26-37, 1985年.
196. 林知己夫：**データ解析法**, 日本放送出版協会, 1985年.
197. 林知己夫：「翻訳とは何なのか」**言語生活**, 創立400号記念臨時増刊号, 58, 1985年.
198. 林知己夫：「日本人の国民性」**教育展望**, 5月号, 20-21, 1985年.
199. 林知己夫：「国際相互理解と日本人研究 — 『同じ所』『異なる所』を見極めよ」**産経新聞**, 1985年5月21日. (200. に収録)
200. 林知己夫：「国際相互理解と日本人研究 — 『同じ所』『異なる所』を見極めよ」**正論**, 1985年. (199. を収録)
201. 林知己夫：「調査極意」**市場調査** (輿論科学協会), 183号, 1-15, 1985年.
202. 林知己夫：「新しい日本人とはどんな人間？」**NEXT**, 8月号, 98-102, 1985年.
203. 林知己夫・赤池弘次・鈴木達三：**統計学特論**, 日本放送出版協会, 1985年.
204. 林知己夫 他：「比較文化研究における連鎖的調査手法の確立とその展開 — 1983年ハワイ・ホノルル市民調査 —」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 63, 1985年.
205. Hayashi, C., Hayashi, F., Suzuki, T., Lebart, L. and Kuroda, Y. : Comparative study of quality of life and multidimensional data analysis: Japan, France and the U. S. (Hawaii), in *Fourth International Symposium, Data Analysis and Informatics (Versaille, France, Oct., 1985)*, INRIA, 573-583, 1985. (255. に収録)
206. Leghorn, R. Y. and Suzuki, T. : Age, sex and cohort: explicating social change in post-war Japan, *Behaviormetrika*, No. 18, 1-16, 1985. (255. に収録)
207. 中村隆：「ベイズ型コウホートモデル」**統計数理**, 33巻1号, 47-48, 1985年.
208. 西平重喜：「日本人の国民性の研究」**ケース・データにみる社会・世論調査** (代表者岡本宏), 芦書房, 36-72, 1985年.
209. 坂元慶行：**カテゴリカルデータのモデル分析**, 共立出版, 1985年.
210. 鈴木達三：「消費者行動の新しいとらえ方 — コウホート分析を中心に —」**講演集・消費者行動を考える** (流通問題研究協会 編, IDR 研究資料 98), 59-77, 1985年11月.
211. 鈴木達三・中村隆：「継続調査データの二次分析」**日本行動計量学会第13回大会発表論文抄録集**, 72-73, 1985年.

#### 1986年

212. 林知己夫：「日本の国際化 — 世界の孤児にならないために —」**集団力学研究所紀要**, 3巻, 110-119, 1986年.
213. 林知己夫：「日本人の休み方・遊び方」**観光文化** (交通公社), Vol. 59, No. 91, 1, 1986年.
214. 林知己夫：「日本人の国民性」**新教育社会学辞典**, 東洋館出版社, 697-698, 1986年.
215. 林知己夫：「国民性の統計的研究 — 来しかたを見て行くさきを思う」**統計数理**, 34巻1号, 1-27, 1986年.
216. 林知己夫・鈴木達三：**社会調査と数量化 — 国際比較におけるデータ解析 —**, 岩波書店, 1986年.
217. 林知己夫 他：「比較文化研究における連鎖的調査手法の確立とその展開 — 改定増補版 —」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 64, 1986年.
218. Kuroda, Y., Hayashi, C. and Suzuki, T. : The role of language in cross-national surveys: American and Japanese respondents, *Applied Stochastic Models and Data Analysis*, Vol. 2, 43-59, 1986. (255. に収録)

219. 中村隆：「交互作用項のあるコウホート・モデル—ベイズ型コウホートモデル (VI)—」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 19-20, 1986年.
220. The Research Committee on the Study of Honolulu Residents: The Third Attitudinal Survey of Honolulu Residents, *The ISM Monograph*, 3, The University of Hawaii Press, 1986.
221. 鈴木達三：「国際比較の現状とあり方—『意識の国際比較方法論の研究』に向けて—」文化会議, 第209号(11月号), 34-41, 1986年.

### 1987年

222. 林知己夫：「日本人の人間関係」人間関係論(三隅二不二編著), 日本放送出版協会, 166-182, 1987年.
223. Hayashi, C.: Statistical study on Japanese national character, *J. of Japan Statistical Society*, Special Issue, 71-95, 1987.
224. Kuroda, Y., Kuroda, A. K., Hayashi, C. and Suzuki, T.: The end of westernization and the beginning of new modernization in Japan: attitudinal dynamics of the Japanese, 1953-1983, *The Arab J. of the Social Sciences*, Vol. 2, No. 1, 18-36, 1987. (255. に収録)
225. 中村隆：「公開講演会要旨：年齢・時代・世代の違いを探る—コウホート分析の方法—」統計数理, 35巻1号, 103-107, 1987年.
226. 中村隆：「年齢・時代・世代の違いを捉える—ベイズ型コウホートモデル—」インフォメーション, Vol. 6, No. 9, 74-84, 1987年.
227. 中村隆：「年齢・時代・世代効果の分離—ベイズ型コウホートモデル—」第55回日本統計学会講演報告集, 87-88, 1987年.
228. 中村隆：「交互作用項のあるコウホート・モデル(2)—ベイズ型コウホートモデル(VII)—」日本行動計量学会第15回大会発表論文抄録集, C2.3.1-2, 1987年.
229. 坂元慶行：「階層帰属意識の実像」統計数理, 35巻2号, 233-255, 1987年.
230. Sasaki, M. and Suzuki, T.: Changes in religious commitment in the United States, Holland, and Japan, *American J. of Sociology*, Vol. 92, No. 5, 1055-1076, 1987. (255. に収録)
231. Trommsdorff, G., Suzuki, T. und Sasaki, M.: Soziale ungleichheiten in Japan und der Bundesrepublik Deutschland, *Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie*, Vol. 39, No. 3, 496-515, 1987. (255. に収録)

### 1988年

232. 林知己夫：「日本人研究と国際比較」総研ジャーナル(関西学院大、総合研究室), No. 50, 1-22, 1988年.
233. 林知己夫：生活価値観の変化とその測定(マーケティング教育研究所レポート), 1988年3月.
234. 林知己夫：日本人の心をはかる, 朝日新聞社, 1988年.
235. 林知己夫：「玉虫色好きは貴重な態度—日本人の国民性調査から—」産経新聞, 1988年7月26日. (236. に収録)
236. 林知己夫：「日本人の国民性調査から」正論, 10月号, (オピニオン正論欄 30-31), 1988年. (235. を収録)

### 1989年

237. 「国民性の研究 第8回全国調査—1988年全国調査—」統計数理研究所 研究レポート, No. 69, 1989年.
238. 林知己夫：「心をはかる 数量からみた日本人の心」東京新聞, 1989年2月2日.
239. 林知己夫：「心をはかる 変わらぬ心、変わる心」東京新聞, 1989年2月9日.
240. 林知己夫：「心をはかる 変化する『心の構図』」東京新聞, 1989年2月16日.

241. 林知己夫：「心をはかる 変化の節目は15年刻み」**東京新聞**, 1989年2月23日.
242. 林知己夫：**新型日本人と企業の対応** (マーケティング教育研究所レポート), 1989年3月.
243. 林知己夫：「人間の価値観の重要性」**RANDOM** (リサーチ・アンド・デベロップメント), 5号, 1-2, 1989年.
244. 林知己夫：「日本人の科学文明観と情操教育」**悠** (筑摩書房), 10月号, 18-21, 1989年.
245. 林知己夫：「国際化と日本人の意識」**商工ジャーナル**, 11月号, 9, 1989年.
246. Hayashi, C. : Cultural link analysis for comparative research—a new approach to the exploration of structure in ways of thinking applied to cross-national analysis of general social attitude, *The Survey Statistician (ISI)*, No. 21, 14-15, 1989.
247. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Language and attitude: a study in Arabic, English, and Japanese on the role of language in cross-cultural thinking, IN *Thinking Across Cultures: The Third International Conference on Thinking* (eds. Topping, D. M., Crowell, D. C. and Kobayashi, V. N.), Lawrence Erlbaum Associates, 147-161, 1989. (255. に収録)
248. Sasaki, M. and Suzuki, T. : New directions in the study of general social attitudes: trend and cross-national perspectives, *Behaviormetrika*, No. 26, 9-30, 1989. (255. に収録)
249. Suzuki, T. : Cultural link analysis: its application to social attitudes—a study among five nations, *Bulletin of the International Statistical Institute, Proc. of the 47th Session, Paris*, 343-379, 1989. (255. に収録)
250. 吉野諒三：「『Batchelder と Romney の正答のないテスト理論』の拡張とアンケート調査法への応用」**統計数理**, 37巻2号, 171-188, 1989年.

#### 1990年

251. 林知己夫：「世論調査による日本人の国民性」**日本世論調査協会報**, 64号, 3-9, 1990年.
252. 林知己夫：「日本人の価値観」**道標** (実務研究所), 3月号, 8-9, 1990年.
253. 林知己夫：「国民性」**新教育学大事典**, 第一法規, 239-240, 1990年.
254. Hayashi, C. : Statistical study of Japanese national character and its international comparison among five nations, *The Survey Statistician (ISI)*, No. 23, 14-15, 1990.
255. Hayashi, C. and Suzuki, T. (eds.) : *Beyond Japanese Social Values — Trend and Cross-National Perspectives*, Inst. Statist. Math., 1990.

#### 1991年

256. 林知己夫：「日本人の人間関係」**人間関係論** (三隅二不二 編著), 放送大学教育振興会, 177-192, 1991年. (222. の改訂版)
257. 林知己夫：「国民性をはかる」**市場調査** (興論科学協会), 206-207 合併号, 2-32, 1991年.
258. 林知己夫：「国際社会とストレス」**ストレスと人間科学**, No. 6-1, 35-37, 1991年.
259. 林知己夫：「日本の若者」**Phase** (リサーチ・アンド・ディベロップメント社年報), 91, 2-23, 1991年.
260. 林知己夫：**生活価値観とグローバル・マーケティング**, マーケティング教育研究所 (R&D), 1991年.
261. 林知己夫：「豊さの中の日本—その歩みと国際社会の中で」**進路ジャーナル**, 11月号, 94-97, 1991年.
262. 林知己夫・鈴木達三・林文 他：「意識の国際比較方法論の研究：連鎖的比較方法の確立とその展開—1988年ハワイ・ホノルル市民調査—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 70, 1991年.
263. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三：「意識の国際比較方法論の研究—新しい統計的社会調査法の確立とその展開—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 71, 1991年.
264. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三：「意識の国際比較方法論の研究—5カ国調査共通ファイルコードブック—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 72, 1991年.

265. Hayashi, C., Suzuki, T. and Leghorn, R. Y. : *The Japanese and the Americans — Comparative and Time Series Surveys of the Institute of Statistical Mathematics*, Inst. Statist. Math., 1991.
266. Hayashi, C., Suzuki, T. and Sasaki, M. (eds.) : *Japanese/American National Character Conference (Hoover Institution, Stanford University, March 17-18, 1990)*, Inst. Statist. Math., 1991.
267. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Arab students and English: the role of implicit culture, *Behaviormetrika*, 29, 23-44, 1991.
268. Nisihira, S. et Condominas, C. : *L'opinion des Japonais; Société-Travail-famille à Travers les Sondages — Comparaison Internationale —*, Paris, Sudestasia, 1991.
269. 坂元慶行 : 「継続調査から何がわかるのだろうか — 『中流意識』 の分析をめぐる素朴な疑問 —」 **中央調査報**, No. 400, 1-5, 1991年.
270. Sakamoto, Y. : *Categorical Data Analysis by AIC*, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht, Holland, 1991.

### 1992年

271. 統計数理研究所国民性調査委員会 : **第5日本人の国民性 戦後昭和期総集**, 出光書店, 1992年.
272. ブラジル日系人意識調査委員会 : **ブラジル日系人の意識構造**, サンパウロ人文科学研究所, 1992年.
273. 林知己夫 : 「国際的にみた日本人の意識」 **よろん** (世論調査協会報), 70号, 69-74, 1992年.
274. 林知己夫 : 「日本人の考えの筋道を探る」 **Satya** (東洋大学), 7, 12-14, 1992年.
275. 林知己夫 : **生活価値観の動向と市場創造の課題**, マーケティング教育研究所 (R&D), 1992年.
276. 林知己夫 : 「統計的方法による 『日本人の国民性研究と意識の国際比較』 方法論序説」 **日本統計学会誌**, 21巻3号, 353-367, 1992年.
277. 林知己夫 : 「公開講演会要旨 : 日本人の国民性」 **統計数理**, 40巻2号, 227-234, 1992年.
278. Hayashi, C. : Belief systems and the Japanese way of thinking: interchronological and international perspectives, IN *Social, Educational and Clinical Psychology, Proc. of the 22nd International Congress of Applied Psychology*, Vol. 3, Lawrence Erlbaum Associates, 3-34, 1992.
279. Hayashi, C. : Quantitative social research — belief systems, the way of thinking and sentiments of five nations —, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 2, 127-170, 1992.
280. Hayashi, C., Suzuki, T. and Sasaki, M. : *Data Analysis for Comparative Social Research, International Perspectives*, Elsevier, North-Holland, 1992.
281. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : A comparative analysis of the Arab culture: Arabic, English, and Japanese languages and values, *Behaviormetrika*, 30, 35-53, 1992.
282. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Tahalil Mugarin Thagafa Al-Arabiye; Al-Lughat Wa Al-Queem Al Arabiye Wa Al-Ankelizidyyeh Wa Al-Yabaniye (A comparative analysis of the Arab culture; Arabic, English and Japanese language and values), *Al Mustaqbal Al Arabi (The Arab Future)*, No. 16, 14-31, 1992.
283. 中村隆 : 「継続調査データによって社会の変化をとらえる — コウホート分析の方法 —」 **教育と情報**, No. 406, 46-47, 1992年.
284. 中村隆 : 「コウホート分析におけるモデル選択 — ベイズ型コウホートモデル (XII)」 **日本行動計量学会第20回大会発表論文抄録集**, 20-21, 1992年.
285. Nisihira, S. : Public opinion in Japan — changes and comparisons, *Japanstudien*, Band 4, 37-54, 1992.
286. 坂元慶行 : 「統計学の効用」 **教育と情報**, No. 416, 46-47, 1992年.
287. 鈴木達三 : 「公開講演会要旨 : 国民性比較の方法論」 **統計数理**, 40巻2号, 243-253, 1992年.
288. 吉野諒三 : 「社会調査データの国際比較の枠組みのための “superculture”」 **統計数理**, 40巻1号, 1-16, 1992年.

289. Yoshino, R. : An extension of the test theory without answer key by Batchelder and Romney for social survey research, IN *Social, Educational and Clinical Psychology, Proc. of the 22nd International Congress of Applied Psychology* (eds. Motoaki, H., Misumi, J. and Wilpert, B.), Vol. 3, Lawrence Erlbaum Associates, Publishers, 108, 1992.
290. Yoshino, R. : Superculture as a frame of reference for cross-national comparisons of national characters, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 1, 23-41, 1992.
291. Yoshino, R. : The unbiased BIGHT model and its application to the distinction of responses to a free-answer question in a social survey, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 2, 83-96, 1992.

### 1993年

292. 林知己夫：行動計量学序説，朝倉書店，1993年。
293. 林知己夫：「国民性，県民性」現代学校教育大辞典，ぎょうせい，1993年。
294. 林知己夫：「日本人の国民性」Phase（リサーチ・アンド・ディベロプメント社年報），93，64-95，1993年。
295. 林知己夫：生活価値観と消費市場，マーケティング教育研究所（R&D），1993年。
296. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三：「意識の国際比較方法論の研究—5カ国調査性別，年齢別集計—」統計数理研究所 研究レポート，No. 73，1993年。
297. 林知己夫・水野垣・鈴木達三・吉野諒三・林文・山本勝造・河合武夫・脇坂勝則・宮尾進・森幸一：「ブラジル日系人の意識調査—1991～1992年調査（改訂補遺版）」統計数理研究所 研究レポート，No. 74，1993年。
298. 中村隆：「コウホート分析におけるモデル選択の誤差—ベイズ型コウホートモデル（XIII）—」日本行動計量学会第21回大会発表論文抄録集，194-195，1993年。
299. 鈴木達三：「“ものの考え方”を比較する—国民性比較の方法論—」教育と情報，No. 420，44-45，1993年。
300. Suzuki, T. : Macro analysis by means of cohort analysis, *Behaviormetrika*, Vol. 20, No. 1, 77-90, 1993.

### 1994年

301. 「国民性の研究 第9回全国調査—1993年全国調査—」統計数理研究所 研究レポート，No. 75，1994年。
302. 「『家族が一番大切』42%—文部省の国民性調査」朝日新聞，1994年7月17日。
303. 「高まる家族志向、『金・名誉』より『のんき・趣味』—文部省国民性調査」産経新聞，1994年7月17日。
304. 「衣食足りて強まる家族志向!?—文部省の国民性調査」東京新聞，1994年7月17日。
305. 「『社会に満足』初の50%—国民性調査」日本経済新聞，1994年7月17日。
306. 「半数が『社会に満足』—国民性調査『緩やかな保守化』示す」毎日新聞，1994年7月17日。
307. 「マイホーム派増え仕事志向には陰り—国民性調査」読売新聞，1994年7月17日。
308. 「性の制約薄れ『人生に挑戦』」日本経済新聞，1994年8月17日。
309. 林知己夫：「消費者意識の流れを読む」観光文化（交通公社），Vol. 103，2-7，1994年。
310. 林知己夫：「心の変化と不変が綾なす風景」産経新聞（正論），1994年3月15日。
311. 林知己夫：「国民性と環太平洋構想」大平正芳記念財団レポート，11号，11，1994年。
312. 林知己夫：「国民性と環太平洋連帯構造」大平正芳政治的遺産，大平正芳記念財団，341-348，1994年。
313. 林知己夫：「日本人の国民性：変わらぬ点，変わる点，特殊な点，普遍的な点」ESTRELA（統計情報研究開発センター），11月号，28-32，1994年。

314. 林知己夫：「日本人の国民性：変わらぬ点，変わる点，特殊な点，普遍的な点」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター)，12月号，28-31，1994年。
315. 林知己夫：「日本人の国民性」**フォーリン・プレス・センター**，1994年。
316. Hayashi, C. : The Japanese national character, *Foreign Press Center*, 1994.
317. 林文：「日本人の自然観 — プリテスト調査から —」**森林野生動物研究会誌**，No. 20，25-30，1994年。
318. 林文：「日本人の自然観についての予備的考察」**NSS Journal**，No. 1，159-174，1994年。
319. Hayashi, F. : Comparative analysis of the Japanese and Germans: some topics on social values, *Behaviormetrika*, Vol. 21, No. 1, 61-78, 1994.
320. Murakami, M. : Estimate of the number of international children in Japan, based on trends in intermarriage, *Int. J. of Japanese Sociology*, No. 3, 29-43, 1994.
321. 中村隆：「国民性調査データのコーホート分析 — ベイズ型コーホートモデル (XIV)」日本行動計量学会第22回大会発表論文抄録集，144-145，1994年。
322. 坂元慶行：「質的な事象の要因を探す」**データを科学的に読む**，統計数理研究所創立50周年記念・日経NEEDS20周年記念講演，1-5，1994年。
323. 坂元慶行：「価値や視線は私生活に集中 — 『日本人の国民性調査』から —」**FORUM** (日経産業消費研究所)，No. 121，2-3，1994年。
324. 坂元慶行：『日本人の国民性調査』の40年」経済統計学会第38回全国総会報告要旨，33-34，1994年。
325. 坂元慶行：「調査環境の変化と調査設計の一例」第62回日本統計学会講演報告集，141-142，1994年。
326. 鈴木達三：「国際比較調査の事例から『日本語の国際化』を考える」**日本語学**，13巻13号，43-59，1994年。
327. 吉野諒三：「国民性意識の国際比較調査研究 — 統計数理研究所による社会調査研究の時間・空間的拡大 —」**統計数理**，42巻2号，259-276，1994年。

### 1995年

328. 林知己夫：「国民性からみた日本の将来」**日本教育**，No. 221 (1月号)，12-14，1995年。
329. 林知己夫：「日本人の心の行方」**ライフスタイル展望** 21, R&D, 1-39, 1995年。
330. 林知己夫：「日本人の柔かな思想」**市場調査** (輿論科学協会)，222号，2-16，1995年。
331. 林知己夫：**数字からみた日本人のこころ**，徳間書店，1995年。
332. 林知己夫：「日本の現象に浸透の中間的好み」**産経新聞** (正論)，1995年7月25日。
333. 林知己夫：「日本人の心を探る — 日本人の『長』に対するイメージを通して —」**マーケティング教育研究所**，6, 1, 1995年。
334. 林知己夫：「外交の基本は国民性の理解に」**産経新聞** (正論)，1995年10月21日。
335. 林知己夫：「調査に携わる者は」**市場調査** (輿論科学協会)，225号，1-19，1995年。
336. 林知己夫・林文：「国民性の国際比較」**統計数理**，43巻1号，27-80，1995年。
337. 林知己夫・鈴木達三 他 (データライブラリーに関する研究会)：**データライブラリーのあり方に関する研究** (地域社会研究所 研究報告)，1995年。
338. Hayashi, C. : *Changing and Enduring Aspects of Japanese National Character*, Institute of Social Research, INSS (Institute of Nuclear Safety System), 1995.
339. Hayashi, F. and Suzuki, T. : Data analytic representation of characteristics of various breakdowns in cross-cultural survey, IN *Data Science and Its Application* (eds. Hayashi, C. et al.), Harcourt Brace Japan, 235-246, 1995.
340. 駒澤勉・土屋隆裕：「可視化による探索的数量化 III 類の分析法 — 『第9次日本人の国民性調査』データの順序構造に関する分析」**統計数理**，43巻1号，161-176，1995年。
341. 前田忠彦：「日本人の満足感の構造とその規定因に関する因果モデル — 共分散構造分析の『日本人の国民性調査』への適用 —」**統計数理**，43巻1号，141-160，1995年。

342. 前田忠彦：「満足感をめぐる日本人の意識構造」第63回日本統計学会講演報告集, 64-65, 1995年.
343. 前田忠彦：「満足感をめぐる意識の男女差について」日本行動計量学会第23回大会発表論文抄録集, 280-281, 1995年.
344. 中村隆：「交互作用効果モデルと過大分散モデルを用いたコウホート分析 —『日本人の国民性調査』データへの適用—」**統計数理**, 43巻1号, 99-119, 1995年.
345. 中村隆：「国民性調査データのコウホート分析 — 交互作用効果モデルと過大分散モデルを用いて —」第63回日本統計学会講演報告集, 56-58, 1995年.
346. 中村隆：「戦後の日本人意識の変遷 — 国民性調査のコウホート分析 —」日本人口学会第47回大会報告要旨集, 37-39, 1995年.
347. 西平重喜：「社会的価値観は変わるか」**統計数理**, 43巻1号, 81-97, 1995年.
348. 坂元慶行：「『日本人の国民性調査』—40年間の意識動向—」**統計数理**, 43巻1号, 5-26, 1995年.
349. 坂元慶行：「意識調査の調査方式と調査結果 その(1)」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), 10月号, 43-51, 1995年.
350. 坂元慶行：「意識調査の調査方式と調査結果 その(2)」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), 11月号, 34-42, 1995年.
351. 坂元慶行：「日本人の国民性調査」データライブラリーのありかたに関する研究 — その機能と特徴を中心として (データライブラリーに関する研究会), 地域社会研究所, 174-177, 1995年.
352. 坂元慶行：「『日本人の国民性調査』—40年間の意識動向」第63回日本統計学会講演報告集, 47-49, 1995年.
353. Sakamoto, Y. : A study of Japanese national character: ninth nationwide survey, *I.S.M. Research Memorandum*, No. 572, 1995.
354. 鈴木達三：「調査法に関する一考察 — 質問の順や文脈, 前後関係による影響 (context effects) —」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), No. 16, 8-15, 1995年.
355. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究 — 総合報告書 —」**統計数理研究所 研究リポート**, No. 76, 1995年.
356. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究 — 国民性の国際比較の為のマニュアル —」**統計数理研究所 研究リポート**, No. 77, 1995年.
357. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究 — イタリア調査の回答コードブック —」**統計数理研究所 研究リポート**, No. 78, 1995年.
358. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究 — イタリア調査の自由回答データ —」**統計数理研究所 研究リポート**, No. 79, 1995年.
359. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究 — オランダ調査の回答コードブック —」**統計数理研究所 研究リポート**, No. 80, 1995年.
360. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究 — オランダ調査の自由回答データ —」**統計数理研究所 研究リポート**, No. 81, 1995年.
361. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究 — イタリア・オランダ調査の共通ファイルコードブック —」**統計数理研究所 研究リポート**, No. 82, 1995年.
362. 土屋隆裕：「項目分類のための数量化法」**行動計量学**, 22巻2号, 95-109, 1995年.

363. 土屋隆裕：「複数データセット間の違いを探る等質性分析 —『日本人の国民性調査』データへの適用—」*統計数理*, 43巻1号, 121-140, 1995年.
364. 吉野諒三・林知己夫・鈴木達三：「国民性の国際比較調査の為の質問文の作成 — 翻訳のプロセスを中心として —」*行動計量学*, 22巻1号, 62-79, 1995年.
365. Yoshino, R. and Khor, D. : Complementary scaling for cross-national analyses of national character, *Behaviormetrika*, Vol. 22, No. 2, 155-184, 1995.

#### 1996年

366. 林知己夫：日本人の心とガン告知 (日本癌病態治療学会報告書), 1996年.
367. 林知己夫：日本らしさの構造 — ところと文化をはかる, 東洋経済新報社, 1996年.
368. 林知己夫：「日本特殊論は成り立つか」*コンセンサス*, 2月号, 6-7, 1996年.
369. 林知己夫：「数字からみた日本人の心」*住友マネジメントレビュー*, 2月号, 30-31, 1996年.
370. 林知己夫：「統計で探る日本人の心」*郵政*, 3月号, 6-9, 1996年.
371. 林知己夫：「日本人の心とガン告知」*産経新聞* (正論), 1996年2月29日.
372. 林知己夫：「日本人の国民性 — 変わるものと変わらないもの, 特殊なものや普通なもの —」*交詢雑誌*, No. 387, 12-20, 1996年.
373. 林知己夫：「トップのリーダーシップについて思うこと」*運輸と経済*, 9月号, 2-3, 1996年.
374. 林知己夫・加留部清・北田淳子・北條眞：「日本における『長』のイメージ」*INSS Journal*, No. 3, 90-132, 1996年.
375. Hayashi, C. : Cultural link analysis (CLA) for qualitative comparative social research and its applications, IN *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 202-229, 1996.
376. 中村隆：「コウホート分析における識別問題再考 — ベイズ型コウホートモデル (XV) —」日本行動計量学会第24回大会発表論文抄録集, 208-209, 1996年.
377. Sasaki, M. and Suzuki, T. : Changes in religious commitment in the United States, Holland, and Japan, IN *Comparing Nations and Cultures* (eds. Inkeles, A. and Sasaki, M.), Prentice-Hall, 586-601, 1996.
378. 鈴木達三：「国際比較調査における標本計画と調査実施に関する一考察」*行動計量学*, 23巻1号, 46-62, 1996年.
379. 鈴木達三：「サンプリング, 国際比較, 分析・報告 (の一部)」*世論調査事典* (NHK放送文化研究所編), 大空社, 1996年.
380. Suzuki, T. : Macro analysis by means of cohort analysis, IN *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 53-70, 1996.
381. Suzuki, T. and Sasaki, M. : The Use and Role of the Data Library for Improving Survey Methods, *Paper presented at the WAPOR Regional Conference in Tokyo*, 1996.
382. Yoshino, R. : Degree of conformity for the cross-national comparative study of national character, IN *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 182-206, 1996.

#### 1997年

383. 林知己夫：「長 (リーダー) の命運と社会の命運」*市場調査* (輿論科学協会), 229号, 2-19, 1997年.
384. 林知己夫：日本人の意識の特色と変化・不変化, 第87回尾張講習会 (名古屋東別院), 1997年.
385. 林知己夫：「講演：社会調査と数量化 — 第7回 社会と情報に関するシンポジウム」*社会情報*, Vol. 7, No. 1, 7-35, 1997年.



386. 林知己夫・鈴木達三：社会調査と数量化 (増補版) — 国際比較におけるデータの科学 —, 岩波書店, 1997年.
387. Hayashi, C. and Kuroda, Y. : *Japanese Culture in Comparative Perspective*, Praeger, 1997.
388. 林文：「国民意識の動向」 過渡期としての1950年代 (中村隆英・宮崎正康 編), 東京大学出版会, 215-238, 1997年.
389. 前田忠彦：「生活満足感と階層帰属意識の関連要因」 日本行動計量学会第25回大会発表論文抄録集, 254-255, 1997年.

#### 1998年

390. Study on Japanese behavior and attitude patterns in JAs, **Hokubei Mainichi**, 1998.10.14.
391. Studies of Nikkei character underway, **Nikkei West**, 1998.10.15.
392. 統計数理研究所国民性国際調査委員会：国民性七か国比較, 出光書店, 1998年.
393. 林知己夫：「社会調査と数量化 (文献紹介)」 **社会学文献事典**, 弘文堂, 1998年.
394. 林知己夫：「『日本のなるもの』の行方を探る (対談)」 **炸**, No. 50 (12月号), 6-7, 1998年.
395. Hayashi, C. : What is data science? — Fundamental concepts and a heuristic example, IN *Data Science, Classification and Related Methods* (eds. Hayashi, C. et al.), Springer-Verlag, 40-51, 1998.
396. Hayashi, C. : The quantitative study of national character, interchronological and international perspectives, *Int. J. of Comparative Sociology*, Vol. 39, No. 1, 91-114, 1998. (後に Sasaki, M. (ed.), *Values and Attitude Across Nations and Time*, Brill, pp.91-114 に再録)
397. 前田忠彦：「階層帰属意識と生活満足感」 **現代日本の階層意識** (間々田孝夫 編, 1995年SSM調査シリーズ6), 1995年SSM調査研究会, 89-112, 1998年.
398. 前田忠彦：「2種類の満足感の相互関係」 **共分散構造分析 [事例編] — 構造方程式モデリング —** (豊田秀樹 編著), 北大路書房, 1998年.
399. 前田忠彦：「社会調査における満足感関連項目の因果分析」 日本行動計量学会第26回大会発表論文抄録集, 13-16, 1998年.
400. 中村隆：「調査データの標本誤差評価とブートストラップ法 — 層別確率比例復元2段無作為抽出法の場合 —」 **ESTRELA** (統計情報研究開発センター), 3月号, 11-19, 1998年.
401. 中村隆：「1995年SSM調査の標本設計と標本精度 — 標本抽出法を考慮した分析に向けて —」 **社会階層・移動の基礎分析と国際比較** (石田浩 編, 1995年SSM調査シリーズ1), 1995年SSM調査研究会, 77-100, 1998年.
402. 鈴木達三：「イメージの中の日本」 **国際社会と日本語**, 国立国語研究所, 23-24, 1998年.
403. 鈴木達三・高橋宏一： **標本調査法**, 朝倉書店, 1998年.
404. 柳井晴夫・前田忠彦：「偏多重対応分析の理論とその応用」 第66回日本統計学会講演報告集, 378-379, 1998年.

#### 1999年

405. 「日本人, 全体に『自信喪失』— 文部省が国民性調査」 **朝日新聞**, 1999年4月28日.
406. 「日本の経済力『よい』5年で47ポイント減の32%— 国民性調査」 **産経新聞**, 1999年4月28日.
407. 「不況の影5年の落差 自信喪失“症候群” — 国民性調査」 **東京新聞**, 1999年4月28日.
408. 「現状『不満』 将来『悲観』— 日本人の国民性」 **日本経済新聞**, 1999年4月28日.
409. 「『社会に満足』半減— 日本人の国民性調査」 **毎日新聞**, 1999年4月28日.
410. 「日本広がる悲観論 — 文部省国民性調査」 **読売新聞**, 1999年4月28日.
411. Survey: Nothing to cheer about, **Asahi Evening News**, 1999.4.28.

412. 林知己夫：「公開講演会要旨：国民性の国際比較 — 計量的文明論構築へ向けて —」**統計数理研究所 ニュース**, No. 66, 3, 1999年.
413. 林知己夫：「調査とデータの科学」**国際社会と日本語**, 国立国語研究所, 125-138, 1999年.
414. 林知己夫：「平成11年度会長訓話『現在の社会と学問を超えて』」**市場調査** (輿論科学協会), 240号, 4-23, 1999年.
415. 林知己夫：「国際比較調査の実際 (談)」**新情報**, Vol. 78, 5-8, 1999年.
416. 林文：「意識調査からみた日本人の自然観 — 自然観の意識構造と若者の意識 —」**東洋英和女学院大学人文・社会科学論集**, 15号, 31-51, 1999年.
417. 前田忠彦：「満足感関連項目に関する因子構造の国際比較」日本行動計量学会第27回大会発表論文抄録集, 319-322, 1999年.
418. 中村隆：「年齢・時代・世代の違いを探る — コウホート分析の方法 —」**こうしょう (高翔)**, No. 32, 15-18, 1999年.
419. 中村隆：「公開講演会要旨：国民性と変化 — 年齢・時代・世代、どれが意識の違いを生むか —」**統計数理研究所ニュース**, No. 66, 2, 1999年.
420. 中村隆・土屋隆裕・前田忠彦・坂元慶行：「国民性の研究 第10次全国調査 — 1998年全国調査 —」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 83, 1999年.
421. Riffault, H.：「Letter to Japanese colleagues」**よろん**, 第83号, 51-52, 1999年.
422. 坂元慶行：「日本人の国民性調査 — 20世紀後半期の意識動向」**文部時報**, No. 1474, 52-55, 1999年.
423. 坂元慶行：「私見『日本人の国民性調査』」**よろん**, 84号, 5-14, 1999年.
424. 坂元慶行：「公開講演会要旨：統計的日本人研究 — 『日本人の国民性調査』の半世紀」**統計数理研究所 ニュース**, No. 66, 2, 1999年.
425. Sakamoto, Y.：Statistical Research of the Japanese National Character: General Trends in Attitudes over the Latter Half of the Twentieth Century, *WAPOR 52nd Conference Papers*, No. 12, 1999. (451. に再録)

## 2000年

426. 「『生まれ変わっても、また女』の時代 — 文部省研究所の国民性調査」**朝日新聞**, 2000年8月25日.
427. 林知己夫：「時系列からみた日本人の国民性 — 創立54周年記念特別講演『21世紀のキーワードと国民性』より」**市場調査** (輿論科学協会), No. 242, 4-23, 2000年.
428. 林知己夫：「これからの国民性研究 — 人間研究の立場と地域研究・国際比較研究から計量的文明論の構築へ —」**統計数理**, 48巻1号, 33-66, 2000年.
429. 林知己夫：「公開講演会要旨：国民性の国際比較 — 計量的文明論の構築へむけて —」**統計数理**, 48巻1号, 259, 2000年.
430. 林知己夫：「国民性の国際比較とデータマイニング — データの質の評価とデータ解析 —」日本分類学会研究報告予稿集, 37, 2000.
431. 林知己夫・山岡和枝：「日本人と日系人の比較」**よろん**, 85号, 7-11, 2000年.
432. Hayashi, C.：Questionnaire construction, data collection and data analysis: an approach by the idea of data science, IN *Proc. of the International Conference on Measurement and Multivariate Analysis*, Vol. 1, Scientific Program Committee of the ICMMA, 7-9, 2000.
433. Hayashi, C.：Evaluation of data quality and data analysis, IN *Data Analysis, Classification and Related Methods* (eds. Kiers, H.A.L., Rasson, J.-P., Groener, R.J.R. and Schader, M.), Springer Verlag, 335-310, 2000.
434. Hayashi, C.：Design and analysis of data in social surveys, *Bulletin de Methodologie Sociologique*, No. 68, 50, 2000.

435. Hayashi, C. : The enduring and changing patterns of opinion — Japanese national character surveys — social science methodology in the new millennium, *Proc. of the Fifth International Conference on Logic and Methodology*, 276, 2000.
436. 林文 : 「野生動物に対する日本人の意識」 *教育と情報*, No. 513, 24-25, 2000 年.
437. 黒田安昌 : 「変化してゆく日本文化 : その要素と原因」 *統計数理*, 48 巻 1 号, 77-92, 2000 年.
438. 前田忠彦 : 「国民性調査における調査精度の経時的比較」 日本行動計量学会第 28 回大会発表論文抄録集, 195-198, 2000 年.
439. 前田忠彦・中村隆 : 「近年 5 回の国民性調査の標本設計と標本精度について」 *統計数理*, 48 巻 1 号, 147-178, 2000 年.
440. Maeda, T. : Analyses of satisfaction related items in the Japanese national character survey by structural equation modeling, IN *Proc. of the International Conference on Measurement and Multivariate Analysis*, Vol. 2, Scientific Program Committee of the ICMMA, 152-155, 2000.
441. 中村隆 : 「質問項目のコウホート分析 — 多項ロジット・コウホートモデル —」 *統計数理*, 48 巻 1 号, 93-119, 2000 年.
442. 中村隆 : 「公開講演会要旨 : 国民性と変化 — 年齢・時代・世代、どれが意識の違いを生むか —」 *統計数理*, 48 巻 1 号, 255-258, 2000 年.
443. 中村隆 : 「質問項目のコウホート分析 — ベイズ型コウホートモデル (XVI) —」 日本行動計量学会第 28 回大会発表論文抄録集, 191-192, 2000 年.
444. 西平重喜 : 「国民性調査の周辺」 *統計数理*, 48 巻 1 号, 67-76, 2000 年.
445. 西平重喜 : 「女は明るく、男はやさしく — 世界青年意識調査から」 *新情報*, Vol. 83, 7-9, 2000 年.
446. 坂元慶行 : 「日本人の考えはどう変わったか — 『日本人の国民性調査』 の半世紀 —」 *統計数理*, 48 巻 1 号, 3-32, 2000 年.
447. 坂元慶行 : 「公開講演会要旨 : 統計的日本人研究 — 『日本人の国民性調査』 の半世紀 —」 *統計数理*, 48 巻 1 号, 253, 2000 年.
448. 坂元慶行 : 「日本人の考えはどう変わったか — 『日本人の国民性調査』 の半世紀」 日本行動計量学会第 28 回大会発表論文抄録集, 189-190, 2000 年.
449. 坂元慶行 : 「男と女」 *統計数理研究所ニュース*, No. 68, 14, 2000 年.
450. 坂元慶行 : 「調査方法と調査結果」 *統計数理研究所ニュース*, No. 71, 7, 2000 年.
451. Sakamoto, Y., Tsuchiya, T., Nakamura, T., Maeda, T. and Fouse, D. B. : A Study of the Japanese National Character: The Tenth Nationwide Survey (1998), *Research Report*, General Series No. 85, The Institute of Statistical Mathematics, 2000. (425. を付録として再録)
452. 土屋隆裕 : 「UNISCAL による『日本人の国民性調査』 データの分析」 *統計数理*, 48 巻 1 号, 121-145, 2000 年.
453. 吉野諒三 他 : 「国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析」 *統計数理研究所 研究レポート*, No. 84, 2000 年.
454. 鄭躍軍 : 「七カ国における自然観・環境観の比較分析」 日本行動計量学会第 28 回大会発表論文抄録集, 273-274, 2000 年.
455. Zheng, Y. and Yoshino, R. : A cross-national analysis of the natural and environmental consciousness based on the survey data in seven countries, *Proc. of the Seventh Japan-China Symposium on Statistics*, 231-234, 2000.

#### 2001 年

456. 「頭痛・イライラ・不眠でもぐっと我慢の日本人 — 健康観を国際比較 文科省研究所」 *朝日新聞*, 2001 年 7 月 18 日.

457. 林知己夫：日本人の国民性研究，南窓社，2001年。
458. 林知己夫：データの科学，朝倉書店，2001年。
459. 林知己夫：「国民性を土台に考える — 変えてはいけないものと変えてよいもの —」医療改革本当のところはどうなんだ，日医総研，20-29 & 30-47，2001年。
460. 林知己夫：「『日本らしさ』の構造」**佛敎大学総合研究所報**，7月号，21-23，2001年。
461. 林知己夫：「柳は緑、花は紅」**市場調査**（輿論科学協会），248号，4-19，2001年。
462. 林文：「自然と人間の関係についての日本人の意識」**教育と情報**，No. 516，8-9，2001年。
463. 林文：「面接調査の調査不能による回収率の偏りの検討 — WHO『DVと女性の健康調査』日本調査（横浜市）を例として —」**中央調査報**，No. 530，1-4，2001年。
464. 前田忠彦：「二段抽出におけるデザイン効果の検証」日本行動計量学会第29回大会発表論文抄録集，354-357，2001年。
465. 前田忠彦：「二段抽出因子分析モデルにおけるデザイン効果の検討」科研費研究集会「因子分析と共分散構造分析に関する諸問題」講演報告集，45-63，2001年。
466. 前田忠彦・土屋隆裕：「日本人の国民性 2000年度吟味調査報告～電話・郵送・面接調査の比較～」**統計数理研究所 研究レポート**，No. 87，2001年。
467. Maeda, T. and Tsuchiya, T. : Comparison among telephone, mail and face-to-face interviewing surveys, *IMPS-2001 International Meeting of the Psychometric Society Abstracts*, 177, 2001.
468. 中村隆：「コウホート分析から見た調査の継続性 — ベイズ型コウホートモデル (XVII) —」日本行動計量学会第29回大会発表論文抄録集，372-373，2001年。
469. 坂元慶行：「日本人の考えはどう変わったか① — 1970年代までの変化」**ESTRELA**（統計情報研究開発センター），No. 88，83-86，2001年。
470. 坂元慶行：「質的データのデータマイニング — 最適なクロス表の自動探索 CATDAP①」**ESTRELA**（統計情報研究開発センター），No. 91，82-85，2001年。
471. 坂元慶行：「質的データのデータマイニング — 最適なクロス表の自動探索 CATDAP②」**ESTRELA**（統計情報研究開発センター），No. 92，84-87，2001年。
472. 坂元慶行：「日本人の考えはどう変わったか② — 1970年代以降の変化を中心に」**ESTRELA**（統計情報研究開発センター），No. 93，81-84，2001年。
473. 坂元慶行：「『日本人の国民性調査』— 社会調査研究のある最前線」**理論と方法**，16巻1号，75-88，2001年。
474. 坂元慶行・土屋隆裕・中村隆・桂康一：あなたは旧人類？ 新人類？（日経2000年 夢のプロジェクト用ソフト），2001年7月。
475. Tsuchiya, T. and Maeda, T. : On the characteristics of two telephone survey methods, *IMPS-2001 International Meeting of the Psychometric Society Abstracts*, 179, 2001.
476. 吉野諒三：心を測る — 個と集団の意識の科学，朝倉書店，2001年。
477. 吉野諒三（研究代表者）：国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析（平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究A(2)）研究成果報告書），2001年。（453.を改訂したもの）
478. 吉野諒三 他：「文化の伝播変容の統計科学研究 — ハワイ日系人・非日系人国際比較調査 —」**統計数理研究所 研究レポート**，No. 86，2001年。
479. 鄭躍軍：「科学・技術に対する意識の国際比較」**科学と社会 2000**（総合研究大学院大学 編），総合研究大学院大学，121-141，2001年。
480. 鄭躍軍・吉野諒三：「科学・技術に対する信 — 日米欧の7カ国データに見られる信頼感のあり方 —」，*I.S.M. Research Memorandum*，No. 813，2001年。

481. 鄭躍軍・吉野諒三・山岡和枝・林文：「日米欧における科学文明観の比較分析」日本行動計量学会第29回大会発表論文抄録集, 368-371, 2001年.
482. Zheng, Y. and Yoshino, R. : Cross-national comparison on consciousness of science, nature and environment, *Proc. of 35th International Institute of Sociology Congress in Krakow*, 171, 2001.

## 2002年

483. 安部光弘・馬場康維：「強制分類による生活満足度に関する量的アプローチ」日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集, 6-7, 2002年.
484. Abe, M. and Baba, Y. : An application of forced classification to analysis of the survey of the Japanese national character, *Proc. of the 4th Conference of the Asian Regional Section of the International Association for Statistical Computing*, 249-252, 2002.
485. Fugita, S. S., Kashima, T. and Miyamoto, S. F. : Methodology of comparative studies of national character: west coast survey, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 143-148, 2002.
486. Fugita, S. S., Miyamoto, S. F. and Kashima, T. : Interpersonal style and Japanese American organizational involvement, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 185-202, 2002.
487. 林知己夫：「世論調査とデータの科学」*よろん*, 89号, 36-39, 2002年.
488. 林知己夫 編著：社会調査ハンドブック, 朝倉書店, 2002年.
489. 林知己夫・櫻庭雅文：数字が明かす日本人の潜在力 — 50年間の国民性調査データが証明した真実, 講談社, 2002年.
490. Hayashi, C. : Questionnaire construction, data collection and data analysis: an approach by the idea of data science, IN *Measurement and Multivariate Analysis* (eds. Nishisato, S. et al.), Springer-Verlag, 13-24, 2002.
491. Hayashi, C. : Design and analysis of data in sample surveys on Japanese national character, *Comparative Sociology*, Vol. 1, No. 1, 93-114, 2002.
492. 林文・佐々木正道：「日米の親子調査 — 親子間における考え方の継承について —」日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集, 342-343, 2002年.
493. 林文・山岡和枝：調査の実際 — 不完全なデータから何を讀みとるか, 朝倉書店, 2002年.
494. Kashima, T., Miyamoto, S. F. and Fugita, S. S. : Religious attitudes and beliefs among Japanese Americans: King county, Washington and Santa Clara county, California, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 203-229, 2002.
495. 前田忠彦：「郵送調査法の特徴に関する研究：一つの事例報告」第33回数理社会学会大会研究報告要旨集, 10-13, 2002年.
496. 前田忠彦：「郵送調査法の特徴に関する研究 — 2000年度1都3県有権者調査報告 —」統計数理研究所 研究教育活動報告, No. 14, 2002年.
497. Miyamoto, S. F., Fugita, S. S. and Kashima, T. : A theory of interpersonal relations for cross cultural studies, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 149-184, 2002.
498. Nakamura, T. : Cohort analysis of data obtained using a multiple choice question, IN *Measurement and Multivariate Analysis* (eds. Nishisato, S. et al.), Springer-Verlag, 241-248, 2002.
499. 坂元慶行：「日本人の国民性調査」社会調査ハンドブック (林知己夫 編), 朝倉書店, 611-615, 2002年.
500. 山岡和枝・鄭躍軍・吉野諒三：「健康観と信頼感」日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集, 350-351, 2002年.
501. 吉野諒三：「『信の崩壊』— 世論調査方法論の今日の課題 —」*行動計量学*, 29巻1号, 45-54, 2002年.
502. 吉野諒三：「シンポジウム『集団と個』に関するデータ解析の問題点 — 『世論調査』及び『東アジア価値観』の方法論研究の視点から —」日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集, 72-75, 2002年.

503. 吉野諒三 (研究代表者) : 文化の伝搬変容の統計科学的研究 — ハワイ日系人・非日系人国際比較調査 — (平成11年度~平成13年度科学研究費補助金 (基盤研究 A(2)) 研究成果報告書), 2002年. (478. を改訂したもの)
504. Yoshino, R. : A time to trust — a study on peoples' sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character —, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 231-260, 2002.
505. Yoshino, R. and Hayashi, C. : Editorial, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 121-124, 2002.
506. Yoshino, R. and Hayashi, C. : An overview of cultural link analysis of national character, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 125-142, 2002.
507. 鄭躍軍 : 「中国・日本における国民の環境意識に関する研究」環境経済・政策学会 2002年大会報告要旨集, 72-73, 2002年.
508. 鄭躍軍 : 「環境意識形成の要因分析 — 中・日の環境意識比較を例として —」環境経済・政策学会 2003年大会報告要旨集, 258-259, 2002年.
509. 鄭躍軍・吉野諒三 : 「標本抽出名簿がない場合の個人標本抽出 — 北京市・上海市における意識調査 —」日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集, 346-349, 2002年.

### 2003年

510. 「北京・上海市民8割が失業不安 — 日中共同意識調査」朝日新聞, 2003年7月9日.
511. 林文・佐々木正道 : 「日本の国際化に関する意識の世代間の比較」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 248-249, 2003年.
512. インケルス, アレックス (吉野諒三訳) : 国民性論 — 精神社会的展望, 出光書店, 2003年.
513. Kuroda, Y. : The rainbow model of American ethnic groups, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 39-62, 2003.
514. 前田忠彦 : 「伝統-近代をめぐる意識変遷の再分析」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 304-305, 2003年.
515. 三好美浩・吉野諒三 : 「自由回答に見る職業意識の分析」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 252-253, 2003年.
516. Nakamura, T. : A Bayesian logit age-period-cohort model, IN *Science of Modeling — The 30th Anniversary of the Information Criterion (AIC)*, ISM Report on Research and Education, No. 17, Inst. Statist. Math., 61-70, 2003.
517. Sakamoto, Y. : CATDAP: Categorical data analysis program for data mining, IN *Science of Modeling — The 30th Anniversary of the Information Criterion (AIC)*, ISM Report on Research and Education, No. 17, Inst. Statist. Math., 271-281, 2003.
518. 土屋隆裕・前田忠彦 : 「二種類の電話調査法の比較実験調査」行動計量学, Vol. 30, 93-109, 2003年.
519. 山岡和枝・吉野諒三 : 「健康感と関連要因：東アジア価値観調査結果の分析」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 250-251, 2003年.
520. Yamaoka, K. and Hayashi, C. : Cultural link analysis of Japanese Americans, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 7-20, 2003.
521. 吉野諒三 : 「(付) 日本における国民性研究」国民性論 — 精神社会的展望 (インケルス著/吉野諒三訳), 朝倉書店, 447-470, 2003年.
522. 吉野諒三 : 「東アジア諸国の人々の日本語観」ECO-FORUM ((財) 統計研究会), Vol. 22, No. 1, 42-51, 2003年.
523. 吉野諒三 : 「国際比較方法論の確立を目指して」よろん, 92号, 28-35, 2003年.
524. 吉野諒三 : 「富国信頼 — 東アジアの人々の『信頼感』の分析 —」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 254-257, 2003年.

525. 吉野諒三・鄭躍軍・朴承根：「東アジア諸国の人々の日本語観」*行動計量学*, 30 巻 1 号, 31-52, 2003 年.
526. Yoshino, R. and Hayashi, C. : Editorial, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 5-6, 2003.
527. 鄭躍軍・村上征勝・吉野諒三・馬場康維・前田忠彦・袁衛・趙彦雲・王棋延：「日本・中国の国民性比較のための基礎研究—中国北京市における意識調査—」*統計数理研究所 研究レポート*, No. 89, 2003 年.
528. 鄭躍軍・村上征勝・吉野諒三・前田忠彦・周国模・唐和平：「日本・中国の国民性比較の基礎研究(2)—中国上海市における意識調査—」*統計数理研究所 研究レポート*, No. 90, 2003 年.
529. 鄭躍軍・吉野諒三：「東アジア価値観比較調査に向けて—中国における意識調査のための標本抽出の実践的検討」*よろん*, 91 号, 16-21, 2003 年.
530. 鄭躍軍・吉野諒三：「中国人・日本人の国民性の特徴 (I)—不安感・満足感・家庭・家族間と伝統的な価値観を中心に—」*日本行動計量学会第 31 回大会発表論文抄録集*, 244-247, 2003 年.
531. Zheng, Y. and Yoshino, R. : Diversity patterns of attitudes toward nature and environment in Japan, USA, and European nations, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 21-37, 2003.

#### 2004 年

532. 「『家族が一番』45 年前の 4 倍 日本人の国民性調査」*産経新聞*, 2004 年 4 月 29 日.
533. 「生活水準 10 年間で『悪化』膨らみ 39% 『改善』わずか 20% 国民性調査 2003 年」*日本経済新聞*, 2004 年 4 月 29 日.
534. 「『女の方が楽しみ多い』初の『多数派』に 日本人の国民性調査」*毎日新聞*, 2004 年 4 月 29 日.
535. 「女の方が楽しみ多い 初めて逆転 国民性調査」*読売新聞*, 2004 年 4 月 29 日.
536. 林文：「宗教感情の国際比較」*日本行動計量学会第 32 回大会発表論文抄録集*, 48-49, 2004 年.
537. 林文：「日本人の自然観と素朴な感情」*学際*, No. 12, 32-38, 2004 年.
538. 林文・吉野諒三・山岡和枝：「素朴な宗教感情に関する一考察—東アジア価値観調査から—」*日本分類学会第 21 回研究報告予稿集*, 6-12, 2004 年.
539. 星野崇宏・吉野諒三：「信頼感と価値観の関係—個票データ解析によるソーシャルキャピタルの国際比較—」*日本行動計量学会第 32 回大会発表論文抄録集*, 48-49, 2004 年.
540. クロダ・ヤスマサ：「『羅生門と山桜』—日本文化の神髄」*学際*, No. 12, 23-31, 2004 年.
541. 松本渉・吉野諒三：「組織への信頼と所属についての国際比較—東アジアのシビルソサエティに注目して—」*日本行動計量学会第 32 回大会発表論文抄録集*, 44-47, 2004 年.
542. Nakamura, T. : A Bayesian logit age-period-cohort model, *I.S.M. Research Memorandum*, No. 922, 2004.
543. 坂元慶行：「調査紹介 第 11 次日本人の国民性調査」*よろん*, 94 号, 44-48, 2004 年.
544. 坂元慶行・中村隆・前田忠彦・土屋隆裕：「国民性の研究 第 11 次全国調査—2003 年全国調査—」*統計数理研究所 研究レポート*, No. 92, 2004 年.
545. 鈴木達三：「『一番大切なもの』の調査～国際比較調査からの二、三の話題」*学際*, No. 12, 13-22, 2004 年.
546. 土屋隆裕・前田忠彦・坂元慶行・中村隆：「調査モード間の比較研究～2002 年度・2003 年度調査～」*統計数理研究所 研究レポート*, No. 93, 2004 年.
547. 吉野諒三：「『国民性』の調査～計量的文明論に向けて～」*学際*, No. 12, 6-12, 2004 年.
548. 吉野諒三：「『科学的』世論調査の価値」*市場調査*, No. 259, 4-13, 2004 年.
549. 吉野諒三：「On the trust of nations: cross-national and longitudinal survey on national character」*日本行動計量学会第 32 回大会発表論文抄録集*, 38-41, 2004 年.
550. Yoshino, R. : On the trust of nations: cross-national and longitudinal survey on national character, *Proc. of 36th World Congress of International Institute of Sociology Congress in Beijing*, 233-234, 2004.

551. Yoshino, R. : A cross-national study on trust — from a viewpoint of cross-national and longitudinal survey, *Proc. of 36th World Congress of International Institute of Sociology Congress in Beijing*, 396-397, 2004.
552. 鄭躍軍・吉野諒三 : 「中国人と日本人の国民性の特徴 (II) — リーダーの資質、愛国心、政治意識を中心に —」日本行動計量学会第 32 回大会発表論文抄録集, 52-55, 2004 年.
553. 鄭躍軍・吉野諒三 : 「意識調査データから見た中国人・日本人の全体像」*よろん*, 93 号, 4-10, 2004 年.
554. Zheng, Y. : A vision for international comparative survey research, *Proc. of the Use of Cross-national Comparative Surveys*, Vol. 3, 123-138, 2004.
555. Zheng, Y. : Cross-cultural comparative studies on Chinese, Japanese national characters, *Proc. of 36th World Congress of International Institute of Sociology Congress in Beijing*, 394-395, 2004.
556. Zheng, Y. : Cross-national comparison on national characters of Chinese, Japanese and Korean based on survey data, *Proc. of 8th China-Japan Symposium on Statistics*, 394-399, 2004.

### 2005 年

557. 『『生まれ変わっても女に』 7 割, 日本最高, (5 カ国・地域での意識調査)』*朝日新聞*, 2005 年 5 月 19 日夕刊.
558. 前田忠彦 : 「郵送調査法の特徴に関する一研究 — 面接調査法との比較を中心として —」*統計数理*, 53 巻 1 号, 57-81, 2005 年.
559. 松本渉 : 「東アジアにおける組織に対する信頼感 — 共分散構造分析を用いたソーシャルキャピタルの国際比較 —」国際開発学会第 6 回春季大会報告論文集, 41-44, 2005 年.
560. 松本渉 : 「シンガポールは東アジアなのか? — 価値観データからの検討 —」日本行動計量学会第 33 回大会発表論文抄録集, 82-85, 2005 年.
561. 三好美浩・吉野諒三 : 「東アジアの職業観 — 日本・中国・台湾・韓国の比較 —」*行動計量学*, 32 巻 1 号, 173-189, 2005 年.
562. 中村隆 : 「コホート分析における交互作用効果モデル再考」*統計数理*, 53 巻 1 号, 103-132, 2005 年.
563. 中村隆 : 「統計的日本人研究の最近の話題から (6) コホート分析における交互作用効果モデル再考 — “一番大切なのは家族” のさらなる分析結果 —」*ESTRELA* (統計情報研究開発センター), No. 141, 50-53, 2005 年.
564. 中村隆 : 「交互作用項のあるコホート・モデル (3) — ベイズ型コホートモデル (XIX) —」日本行動計量学会第 33 回大会発表論文抄録集, 102-103, 2005 年.
565. 坂元慶行 : 「長期継続的な社会調査の最前線 調査と理論との往還」*<社会>への知/現代社会学の理論と方法 経験知の現在* (盛山和夫・土場学・野宮大志郎・織田輝哉 編著), 勁草書房, 29-47, 2005 年.
566. 坂元慶行 : 「日本人の国民性 50 年の軌跡 — 『日本人の国民性調査』 から —」*統計数理*, 53 巻 1 号, 3-33, 2005 年.
567. 坂元慶行 : 「統計的日本人研究の最近の話題から (1) 日本人の国民性 50 年の軌跡① — 高まる家族志向」*ESTRELA* (統計情報研究開発センター), No. 136, 54-57, 2005 年.
568. 坂元慶行 : 「統計的日本人研究の最近の話題から (2) 日本人の国民性 50 年の軌跡② — ゆらぐ人間関係観」*ESTRELA* (統計情報研究開発センター), No. 137, 62-65, 2005 年.
569. 坂元慶行 : 「統計的日本人研究の最近の話題から (3) 日本人の国民性 50 年の軌跡③ — 政治意識とやまとだまし」*ESTRELA* (統計情報研究開発センター), No. 138, 52-55, 2005 年.
570. 坂元慶行 : 「統計的日本人研究の最近の話題から (4) 日本人の国民性 50 年の軌跡④ — 外国や国に対する感覚」*ESTRELA* (統計情報研究開発センター), No. 139, 46-49, 2005 年.
571. 坂元慶行 : 「統計的日本人研究の最近の話題から (5) 日本人の国民性 50 年の軌跡⑤ — 最近の意識調査の問題点と意識動向」*ESTRELA* (統計情報研究開発センター), No. 140, 48-51, 2005 年.



572. 土屋隆裕：「調査不能者の特性に関する一考察—『日本人の国民性第11次全国調査』への協力理由に関する事後調査から—」*統計数理*, 53巻1号, 35-56, 2005年.
573. 土屋隆裕：「電話調査における調査所要時間と回答傾向について」*統計数理*, 53巻1号, 83-101, 2005年.
574. Tsuchiya, T. : Domain estimators for the item count technique, *Survey Methodology*, Vol. 31, No. 1, 41-51, 2005.
575. 吉野諒三：「印東太郎 著『The Global Structure of Visual Space』」*行動計量学*, 32巻1号, 70-73, 2005年.
576. 吉野諒三：「東アジア価値観調査—文化多様体解析 (CULMAN) に基づく計量文明論の構築へ向け—」*行動計量学*, 32巻1号, 133-146, 2005年.
577. 吉野諒三：「富国信頼の時代へ—東アジア価値観国際比較調査における信頼感の統計科学的解析—」*行動計量学*, 32巻1号, 147-160, 2005年.
578. 吉野諒三編：東アジア価値観国際比較調査—2004年度日本A調査報告書—(統計数理研究所), 2005年.
579. 吉野諒三編：東アジア価値観国際比較調査—2004年度日本B調査報告書—(統計数理研究所), 2005年.
580. Yoshino, R. : Trust and National Character— Japanese sense of trust, Cross-national and longitudinal surveys—, *Comparative Sociology*, Vol. 4, No. 3-4, 417-450, 2005.
581. 鄭躍軍：「伝統価値観の社会的変遷—東アジア諸国の国際比較—」*F-GENS ジャーナル*, Vol. 3, No. 1, 314-325, 2005年.
582. 鄭躍軍：「東アジア諸国の伝統的価値観の変遷に関する計量分析」*行動計量学*, 32巻2号, 161-172, 2005年.
583. 鄭躍軍：「中国人・日本人の国民性の特徴 (III) —生活領域・人生観を中心に—」日本行動計量学会第33回大会発表論文抄録集, 74-77, 2005年.
584. Zheng, Y. : Transition of confucian philosophy: Cross-national comparison on East Asia ethics, *Proc. of 37th International Institute of Sociology Congress*, 383-384, 2005.

## 2006年

585. 前田忠彦・大隅昇：「日記式調査における実査方式間の比較研究—ウェブ調査の特徴をしらべるための実験的検討—」*ESTRELA* (統計情報研究開発センター), No. 143, 12-19, 2006年.
586. 松本渉：「東アジアにおける組織に対する信頼感—国際比較のための信頼感の分析—」*行動計量学*, 33巻1号, 25-40, 2006年.
587. 松本渉：「多言語・多民族国家としてのシンガポールの分析—東アジア価値観国際比較調査における信頼感を中心に—」日本行動計量学会第34回大会発表論文抄録集, 248-251, 2006年.
588. 松本渉：「シンガポール調査に見る信頼比較の可能性と課題—東アジア価値観国際比較調査から—」第17回国際開発学会全国大会報告論文集, 315-318, 2006年.
589. 中村隆：「ベイズ型コウホートモデルによる分析」*総研大ジャーナル*, 第9号, 42-43, 2006年.
590. 坂元慶行：「ぶらり日本語 中間的な回答」*日本語学*, Vol. 25, 4-5, 2006年.
591. 坂元慶行：「数字で見る日本人の心—『国民性調査』50年の軌跡」*総研大ジャーナル*, 第9号, 40-45, 2006年.
592. 土屋隆裕：「『調査への指向性』変数を用いた調査不能バイアス補正の試み—『日本人の国民性調査』データへの適用—」*日本統計学会誌*, 36巻1号, 1-23, 2006年.
593. 吉野諒三：「今世論調査が直面する壁—『歴史』と『理論』と『実践』—」*よろん* (世論調査協会報), 97号, 31-36, 2006年.

594. 吉野諒三(研究代表者)：東アジア価値観国際比較調査—『信頼感』の統計科学的解析—(平成14-17年度科学研究費補助金(基盤研究(A))研究成果報告書), 2006年.
595. 吉野諒三編：環太平洋(アジア太平洋地域)価値観国際比較調査2005年度中国(北京・上海・香港)調査報告書(統計数理研究所), 2006年.
596. Yoshino, R.: A social value survey of China—on the change and stability in the Chinese globalization—, *Behaviormetrika*, Vol. 33, No. 2, 111-130, 2006.
597. 鄭躍軍・吉野諒三：「標本抽出名簿がない場合の個人標本抽出—東京都における実証的な調査を中心に—」日本行動計量学会第34回大会発表論文抄録集, 224-227, 2006年.
598. 鄭躍軍・吉野諒三・村上征勝：「環境意識—日本・中国の比較—」行動計量学, 32巻2号, 55-68, 2006年.
599. 鄭躍軍・吉野諒三・村上征勝：「東アジア諸国の人々の自然観・環境観の解析—環境意識形成に影響を与える要因の抽出—」行動計量学, 33巻1号, 55-68, 2006年.

### 2007年

600. 「国際交流の重点領域：中国は科学技術、韓国は経済、日本は環境」朝日新聞, 2007年6月8日朝刊.
601. 林文：「社会調査からみる宗教・素朴な宗教的感情と死生観」死生学年報2007(東洋英和女学院大学死生学研究所編), リトン, 129-154, 2007年.
602. 林文：「宗教と素朴な宗教的感情」東アジア国民性比較 データの科学(吉野諒三編), 勉誠出版, 139-154, 2007年.
603. 林文：「宗教的な心について—アジアと日本の比較に向けて—」日本行動計量学会第35回大会発表論文抄録集, 291-292, 2007年.
604. 松本渉：「組織に対する信頼の国際比較」東アジア国民性比較 データの科学(吉野諒三編), 勉誠出版, 155-179, 2007年.
605. 松本渉：「アジア・太平洋地域における組織に対する信頼—国際比較と時系列比較—」日本行動計量学会第35回大会発表論文抄録集, 295-298, 2007年.
606. Matsumoto, W.: Cross-national comparability of trust in organizations in East Asia, *Abstract of IMPS2007, the 72nd Annual Meeting of the Psychometric Society*, 83, 2007.
607. 巖岩晶・吉野諒三・鄭躍軍：「国際比較における『データの安定性』に関する一考察—中国調査データの検討を通じた文化多様体解析の試行—」統計数理, 55巻2号, 285-310, 2007年.
608. 巖岩晶・吉野諒三・鄭躍軍：中国価値観調査回収データの際検討を通じた「意識の国際比較調査」データの安定性について—文化多様体解析(CULMAN)の方法論的基礎に関する一考察—, *I.S.M. Research Memorandum*, No. 1026, 2007.
609. Sakamoto, Y., Tsuchiya, T., Nakamura, T. and Maeda, T.: A Study of the Japanese National Character: The Eleventh Nationwide Survey (2003)—English Edition—, *Research Report, General Series No. 94*, The Institute of Statistical Mathematics, 2007.
610. 土屋隆裕：「RDD調査における世帯内抽出法の比較実験」統計数理, 55巻1号, 143-157, 2007年.
611. 土屋隆裕：「調査環境の悪化と間接質問法—間接質問法の新展開—統計調査における情報秘匿(1)」ESTRELA(統計情報研究開発センター), No. 160, 48-51, 2007年.
612. 土屋隆裕・前田忠彦・中村隆・坂元慶行：ポスティング調査における任意抽出法—日本人の国民性2006年松本市調査—, *I.S.M. Research Memorandum*, No. 1032, 2007年.
613. 土屋隆裕・前田忠彦・中村隆・坂元慶行：「エリアサンプリングによるポスティング調査—郵送調査との比較実験—」統計数理研究所 研究レポート, No. 96, 2007年.
614. 吉野諒三：「第6章 計量的文明論」数理心理学(吉野諒三・千野直仁・山岸候彦), 培風館, 191-232, 2007年.

615. 吉野諒三：「統計数理研究所の『国民性の調査』」*心理学ワールド* (日本心理学会編集・発行), No. 39, 38, 2007年.
616. 吉野諒三編：東アジア国民性比較 データ科学, 勉誠出版, 2007年.
617. 吉野諒三編：環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2006年度 USA 調査報告書 (統計数理研究所), 2007年.
618. 吉野諒三・松本渉編：環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2006年度韓国調査報告書 (統計数理研究所), 2007年.
619. 吉野諒三・巖岩晶編：環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2006年度台湾調査報告書 (統計数理研究所), 2007年.
620. 鄭躍軍：「抽出の枠がない場合の個人標本抽出の新しい試み — 東京都における意識調査を例として —」*統計数理*, 55巻2号, 311-326, 2007年.
621. 鄭躍軍：「規範観の国際比較 — 東アジアの法意識を中心に」日本行動計量学会第35回大会発表論文抄録集, 293-294, 2007年.
622. 鄭躍軍・金明哲・村上征勝：データサイエンス入門, 勉誠出版, 2007年.

#### 2008年

623. 「研究室訪問：『日本人の国民性調査』55年続く社会調査を担当：前田 忠彦」*統計数理研究所ニュース*, No. 102, 2-3, 2008年.
624. 「民の心を測る⑧みんな中流？ 定期診断」*朝日新聞*, 2008年12月9日 (夕刊).
625. 林文：「家族に関する価値観 — 日本を中心に調査データから —」*多角的にみた家族 — 社会・文化・福祉* (与那覇恵子・林文編), 鼎書房, 9-34, 2008年.
626. 林文：「健康観・死生観と宗教的な心」*W'Waves* (日本癌病態治療研究会誌), Vol. 14, No. 1, 35-38, 2008年.
627. 松本渉：「多母集団間の等値条件と連鎖的な比較分析 — アジア・太平洋地域の繰り返し調査における組織に対する信頼を中心に —」日本行動計量学会第36回大会発表論文抄録集, 63-64, 2008年.
628. 大隅昇・前田忠彦：「インターネット調査の抱える課題 — 実験調査から見えてきたこと — (その2)」*よろん* (日本世論調査協会報), 101号, 79-94, 2008年.
629. Tsunoda, H., Yoshino, R. and Yokoyama, K. : Components of social capital and socio-psychological factors that worsen the perceived health of Japanese males and females, *The Tohoku J. of Experimental Medicine*, Vol. 216, No. 2, 173-185, 2008.
630. 吉野諒三：「『科学的』世論調査の価値 — 歴史と理論と実践の三位一体」*日本統計学会誌*, 37巻2号, 279-290, 2008年.
631. 吉野諒三：「いんぷおるむ第53回 海外の標本抽出面接調査の方法」*新情報*, Vol. 95, 7-12, 2008年.
632. 吉野諒三：「『国民性』と環境問題 — 文化の多様性を受け入れる政策立案のために —」*環境情報科学*, 37巻1号, 21-26, 2008年.
633. 吉野諒三：「UFOは存在するか? — お化け調査再考『合理と非合理の間』—」*市場調査*, 273, 4-13, 2008年.
634. 吉野諒三：「継続調査の課題と将来」*社会と調査*, 創刊号, 29-35, 2008年.
635. 吉野諒三：「第1章 信頼の国際比較」*ソーシャル・キャピタルの潜在力* (稲葉陽二編), 日本評論社, 31-53, 2008年.
636. 吉野諒三：「(信頼感調査の結果についてのインタビュー記事) 不信のなかにも冷静な判断」*朝日新聞*, 2008年3月21日 (朝刊).
637. 吉野諒三編：環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2007年度シンガポール調査報告書 (統計数理研究所), 2008年.

638. 吉野諒三・松本渉編：環太平洋（アジア太平洋地域）価値観国際比較調査 2007年度オーストラリア調査報告書（統計数理研究所），2008年。
639. 吉野諒三・山岡和枝編：医療と文化の連関に関する統計科学的研究 — 生命観の国際比較 2006年度米国 CATI 調査 —（統計数理研究所），2008年。
640. 鄭躍軍：統計的社会調査 — 心を測る理論と方法 —，勉誠出版，2008年。
641. 鄭躍軍：「伝統的価値観の社会的変遷」少子化とエコノミー パネル調査で描く東アジア（篠塚英子・永瀬伸子編），作品社，2008年。
642. 鄭躍軍：「みんなの意見はなぜ大切なのか」地球の処方箋（総合地球環境学研究所編），昭和堂，2008年。
643. 鄭躍軍：「国家観の国際比較 — 東アジアの政治意識を中心に」日本行動計量学会第36回大会発表論文抄録集，61-62，2008年。

### 2009年

644. 「20～30代『イライラ』6割 国民性調査」朝日新聞，2009年7月17日。
645. 「日本人の自信喪失続く 国民性調査」産経新聞，2009年7月17日。
646. 「生活『貧しくなる』57% 不満『選挙で考慮』55% 国民性調査」東京新聞，2009年7月17日。
647. 「貧しくなる57% 自由減る40% 不満は『選挙で』国民性調査」日本経済新聞，2009年7月17日。
648. 「『仕事外でも上司と付き合いたい』20、30代で増える 国民性調査」毎日新聞，2009年7月17日。
649. 「『イライラする』若者60%超 『家族が一番』最高46% 『日本人の国民性』調査」読売新聞，2009年7月17日。
650. Fujita, T. and Yoshino, R. : Social values on international relationships in the Asia-Pacific region, *Behaviormetrika*, Vol. 36, No. 2, 149-166, 2009.
651. 林文・二階堂晃祐：「宗教的な心の国際比較に向けて — 2008年インド調査を踏まえ、環太平洋価値観調査から —」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集，188-189，2009年。
652. Hayashi, F. and Nikaido, K. : Religious faith and religious feelings in Japan: analyses of cross-cultural and longitudinal surveys, *Behaviormetrika*, Vol. 36, No. 2, 167-180, 2009.
653. 星野崇宏：「社会調査における選択バイアスと感度分析 — 国民性調査データへの適用 —」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集，130-131，2009年。
654. Kuroda, Y. : *Ha* model of multi-ethnic-culture in a city without majority, *Behaviormetrika*, Vol. 36, No. 2, 181-203, 2009.
655. 前田忠彦：「全国規模の社会調査の標本設計に関する一考察 — 日本人の国民性第12次全国調査を題材として —」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集，126-127，2009年。
656. 前田忠彦：「匿名性を確保した郵送調査の実施方法に関する検討」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集，236-237，2009年。
657. 松本渉：「組織に対する信頼の文化多様体解析 — 東アジア価値観国際比較調査とアジア・太平洋価値観国際比較調査から —」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集，194-195，2009年。
658. 松本渉：「質問文の変更とその影響の有無について — 国民性調査とその関連調査から —」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集，132-133，2009年。
659. 三船毅・中村隆：「衆議院選挙投票率の分析 — 1969年から2005年における年齢・時代・世代の影響 —」選挙研究，25巻2号，83-106，2009年。
660. 中村隆：「第12次調査の結果概要と回収／不能のコウホート分析 — ベイズ型コウホートモデル (XXI) —」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集，124-125，2009年。
661. 中村隆：「継続調査で見えてくるもの〜コウホート分析の方法」よろん（世論調査協会報），104号，4-11，2009年。
662. 西平重喜：世論をさがし求めて，ミネルヴァ書房，2009年。

663. 土屋隆裕：「国民性調査における調査不能」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 128-129, 2009年.
664. 土屋隆裕：概説 標本調査法, 朝倉書店, 2009年.
665. 山岡和枝：「健康感から捉えた文化的連鎖」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 190-191, 2009年.
666. 吉野諒三：「信頼感と基本的価値観 — アジア太平洋価値観国際比較調査における文化多様体解析 —」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 186-187, 2009年.
667. 吉野諒三編：環太平洋 (アジア太平洋地域) 価値観国際比較調査 2008年度インド調査報告書 (統計数理研究所), 2009年.
668. Yoshino, R. : Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character, *Behaviormetrika*, Vol. 36, No. 2, 115-147, 2009.
669. Yoshino, R., Nikaido, K. and Fujita, T. : Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character: paradigm of cross-national survey, *Behaviormetrika*, Vol. 36, No. 2, 89-113, 2009.
670. 鄭躍軍：「文化観の国際比較 — 東アジアの伝統文化と現代社会を中心に」日本行動計量学会第37回大会発表論文抄録集, 192-193, 2009年.

#### 2010年

671. Hayashi, F. : Japanese religious mind in daily life — based on East-Asia Value Surveys, *Program and Papers, International Symposium on "Culture, Society, Economics and Environment in Modern East Asia," Doshisha University*, 65-70, 2010.
672. 松本渉・吉野諒三：「市民の政治参加と社会貢献の国際比較 — 韓国調査報告書 —」統計数理研究所 研究レポート, No. 101, 2010年.
673. 松本渉 他：「政治参加と社会貢献の計量分析 — 日本 RDD 調査の集計と日本面接調査の分析 —」統計数理研究所 共同研究レポート, No. 248, 2010年.
674. Matsumoto, W. and Nikaido, K. : 「Cross-national Comparison of Political Participation and Social Contribution: USA Survey Report — English Edition —」統計数理研究所 研究レポート, No. 100, 2010年.
675. 坂元慶行：「巻頭言 — 一寸先は闇」*よろん* (世論調査協会報), 105号, 1, 2010年.
676. Yamaoka, K. : Subjective health and social factors: multidimensional data analyses of cross-national survey, *Behaviormetrika*, Vol. 37, No. 1, 37-54, 2010.
677. Yoshino, R. : A Cultural manifold analysis of East Asia, *Program and Papers, International Symposium on "Culture, Society, Economics and Environment in Modern East Asia," Doshisha University*, 31-35, 2010.
678. Zheng, Y. : Association analysis on pre-environmental behaviors and environmental consciousness in main cities of East Asia, *Behaviormetrika*, Vol. 37, No. 1, 55-69, 2010.